

マリ共和国

貧困プロフィール

2012年3月

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICAの見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
12-136

目次

I. マリの貧困状況の概観.....	1
1. マリの貧困の状況の概観.....	1
II. マリの貧困削減のための政策枠組み.....	2
1. マリの貧困削減戦略・目標の現状.....	2
2. 貧困削減政策の実施状況.....	3
III. 所得貧困による分析.....	5
1. 貧困線とデータ.....	5
2. 貧困の状況 - 貧困率の分析.....	6
3. 格差の分析ージニ係数、貧困ギャップ率等.....	7
IV. 所得貧困以外による分析.....	9
1. HDIによる経年変化の分析と地域国際比較.....	9
2. MDG 指標の分析.....	11
3. 食糧安全保障・脆弱性による分析.....	13
V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析.....	16
1. 地域別の特徴.....	16
2. 性別（男女別）.....	16
3. 学歴別にみた特徴.....	18
4. 年齢階層.....	19
5. 就職状況（職業）.....	20
6. 社会サービス・基本インフラへのアクセスと貧困.....	22
VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因.....	28
1. 人口増加.....	28
2. 雇用問題.....	28
3. 男女格差.....	29
4. 社会保障制度.....	32
5. テロ活動等の治安問題.....	32
6. 気候変動.....	34
VII. マリにおける JICA 事業の優先分野と貧困問題との関係.....	36
1. インフラ整備と地域間・貧富格差の是正.....	36
2. 農業従事者の貧困改善.....	38
3. 母子保健と医療・衛生状況の改善.....	42
4. 初等教育支援.....	47
添付 1 参考文献リスト.....	51
添付 2 主要な情報源リスト.....	53

図表・地図目次

図表 1	主要指標一覧	v
図表 2	貧困率等(2001-2010)	vii
図表 3	HDI 指標(1980-2011 年)	ix
図表 4	マリ、サブサハラ諸国、世界の間開発指標の推移等(1980-2010 年)	ix
図表 5	MDG 指標	xi
図表 6	人口増加状況(2001-2010 年)	4
図表 7	地域別 極貧層の貧困指標推移(2001-2010)	6
図表 8	地域別 貧困率、貧困ギャップ、二乗貧困率(2001-2010 年)	8
図表 9	マリ 地域別 HDI(1994-2005 年)	9
図表 10	マリ 人間開発指標の推移(1980-2011)(再掲)	9
図表 11	マリ、サブサハラ諸国、世界の間開発指標の推移等(再掲)	10
図表 12	教育関連指標(2001-2010 年)	11
図表 13	乳幼児死亡率関連指標(2001・2006 年)	12
図表 14	結核罹患率と死亡率(2002・2006 年)	12
図表 15	経済的に危機にあると指定された地域(2008 年)	14
図表 16	地域別 貧困率の推移(2001・2010 年)	16
図表 17	世帯主の性別にみた貧困率の推移(2001-2010 年)	17
図表 18	世帯主の性別 食糧安全保障状況(2008 年)	17
図表 19	世帯主の職業と貧困指標(2001・2006 年)	18
図表 20	学歴別の食糧安全保障状況(2008 年)	19
図表 21	地域別 識字率の推移(2001-2010 年)	19
図表 22	年齢階層別識字率(2010 年)	20
図表 23	職業別 貧困指数(2010 年)	21
図表 24	貧富別 世帯収入源(2006 年)	22
図表 25	職業別 食糧安全保障状況(2008 年)	22
図表 26	貧富階層別にみた水へのアクセス率(2001-2010 年)	23
図表 27	地域別 水源(2008 年)	24
図表 28	貧富階層別及び地域別の野外での排泄率(2001-2010 年)	25
図表 29	貧富階層別の電気エネルギーへのアクセス率の推移(2001-2010 年)	26
図表 30	地域別の電気へのアクセス率(2001-2010 年)	26
図表 31	貧富階層別の炊事用エネルギー源(2001-2010 年)	27
図表 32	男女別識字率の推移(2001-2010 年)	30
図表 33	男女別 7-12 歳の初等教育就学率の推移(2001-2010 年)	31
図表 34	男女別農業従事者の割合(1970-2010 年)	31

図表 35	共済加入率の推移（2005-2008年）	32
図表 36	貧富階層別にみた水へのアクセス率(2001-2010年)（再掲）	37
図表 37	貧富別 電気へのアクセス率（2001-2010年）	37
図表 38	人口と交通インフラの密度	38
図表 39	職業別貧困率(2010年)	40
図表 40	地域別貧困率(2001-2010年)	40
図表 41	主要栽培作物の生産高の推移 Kg/ha（1990-2009年）	41
図表 42	WFP 指標による栽培作物・収入源別貧富状況	42
図表 43	WFP 指標による栽培作物・収入源別 年間支出額に食費が占める割合	42
図表 44	貧富別 5歳未満児の死亡率(2001・2006年)	44
図表 45	貧血がみとめられる5歳未満児の割合(2001・2006年)	45
図表 46	5歳未満児の健康指標の推移（1987-2006年）	45
図表 47	適切な介助者の立ち会いによる出産率（2001-2006年）	46
図表 48	医療施設で出産しない理由（2006年）	47
図表 49	地域別 初等教育課程の実質就学率(2001-2010年)	48
図表 50	基礎教育課程における男女比率(2001-2010年)	49
図表 51	貧富階層別及び男女別の初等教育実質就学率の推移(2001-2010年)	49
図表 52	年齢及び貧富階層別の18歳未満で出産した女性の割合（2006年）	50
地図 1	マリ行政区画	xii
地図 2	貧困率（県別 2006年）	xiii
地図 3	貧困率（県別）（再掲）	7
地図 4	食糧安全保障上、経済的に危険だとされる自治体（2008）	15
地図 5	治安状況(2012年3月13日現在 フランス政府による)	34
地図 6	食料安全保障が危険な地域（2012年）	35
地図 7	栽培作物グループ分布図	41

略語表

CSCOM	Centre de Santé Communautaire	地域保健センター
CSCR	Cadre Stratégique pour la Croissance et la Réduction de la Pauvreté	成長・貧困削減戦略書
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国連食糧農業機関
HDI	Human Development Index	人間開発指標
ILO	International Labor Organization	国連労働機関

INSTAT	Institut National de la Statistique	国家統計局
IOM	International Organization for Migration	国際移住機関
MDGs	Millenium Development Goals	ミレニアム開発目標
MNLA	Mouvement national de libération de l'Azawad	アザワド解放運動
PAN/EPS	Plan d'Actions National d'Extension de la Protection Sociale	社会保護拡大計画
PEJ	Programme Emploi Jeunes	若年者雇用プログラム
PNSA	Plan National de Sécurité Alimentaire	食糧保障国家計画
PRSP	Poverty Reduction Strategy Paper	貧困削減文書
PSPSDN	Programme spécial pour la Paix, la Sécurité et le Développement dans le Nord du Mali	北部地域における発展と安全、平和のための特別プログラム
SAP	Système d'Alerte Précoce	早期警戒システム
UN	United Nations	国際連合（国連）
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNHCR	United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所
UNICEF	United Nations Children's Fund	国連児童基金（ユニセフ）
WB	World Bank	世界銀行（世銀）
WFP	World Food Programme	国連世界食糧計画

図表 1 主要指標一覧¹

主要指標一覧【マリ】						
	指標項目	2000年	2008年	2009年	2010年	2010年の地域平均値
社会	地表面積(1000km ²)	1,240	1,240	1,240	1,240	n.a.
	人口(百万人)	11.3	14.5	14.9	15.4	854.3
	人口増加率(%)	2.9	3.1	3.1	3.0	2.5
	出生時平均余命(歳)	47	50	51	n.a.	n.a.
	妊産婦死亡率(/10万人)	980	830	n.a.	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(/1000人)	113.4	101.9	100.6	99.2	76.4
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日)*1	2,335	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	62.8	84.2	85.4	85.9	n.a.
	初等教育総就学率(女)(%)	47.3	71.3	73.2	74.7	n.a.
	中等教育総就学率(男)(%)	21.1	38.9	42.1	44.3	n.a.
	中等教育総就学率(女)(%)	11.9	25.5	28.0	30.9	n.a.
	高等教育総就学率(%)	1.9	5.1	5.6	5.8	n.a.
	成人識字率(15歳以上の人口の内:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	絶対的貧困水準(1日1.25\$以下の人口比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済	GDP(百万USドル)	2,422	8,738	8,965	9,251	1,112,012
	一人当たりGNI(USドル)	230	520	570	600	1,187
	実質GDP成長率(%)	3.2	5.0	4.5	4.5	4.8
	産業構造(対GDP比:%)					
	農業	41.6	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	工業	20.6	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	サービス業	37.9	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	産業別成長率(%)					
	農業	-10.4	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	工業	4.7	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	サービス業	4.3	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	総資本形成率(対GDP比:%)	24.6	n.a.	n.a.	n.a.	23.7
	貯蓄率(対GDP比:%)	12.0	n.a.	n.a.	n.a.	19.5
	消費者物価上昇率(インフレ:%)	-0.7	9.2	2.2	1.1	n.a.
	財政収支(対GDP比:%)	-3.4	-1.7	-2.1	n.a.	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比:%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	貿易収支(対GDP比:%)	-12.6	n.a.	n.a.	n.a.	-2.5
	経常収支(対GDP比:%)	-10.5	-12.2	-7.3	n.a.	n.a.
	外国直接投資純流入額(百万ドル)	78	180	749	n.a.	n.a.
	対外債務残高(対GNI比:%)	123.7	24.1	24.1	26.1	n.a.
DSR(対外債務返済比率:%)	14.0	2.7	3.1	2.5	n.a.	
総外貨準備高(輸入支払い可能月数)	4.4	3.1	5.8	n.a.	5.3	
総外貨準備高(百万ドル)	382	1,072	1,604	1,344	158,488	
名目対ドル為替レート*2	711.98	447.81	472.19	495.28	n.a.	
	(CFA Francs per US Dollar: Period Average)					
政治体制	共和制					
憲法	1992年1月12日制定。97年1月改正					
元首	大統領。アマドゥ・トゥマニ・トゥレ(Amadou Toumani TOURE)。直接選挙制。任期5年。2002年6月8日就任、07年6月8日再任					
議会	一院制。147議席。直接選挙制。任期5年					
内閣	首相は大統領が任免。首相セ・マリヤム・カイダ・マ・シディベ(CISSÉ Mariam Kaidama Sidibe)。2011年4月就任					

出典 World Development Indicators Online (December 2011) World Bank

*1 FAO Food Balance Sheets (June 2010) FAOSTAT Homepage

*2 International Financial Statistics Online (January 2012) IMF

*3 世界年鑑 2011 共同通信社、各国・地域情勢 2011年5月 外務省Homepage

注 ●地域平均値はサブサハラ・アフリカの数値(地域分類は別添参照)

●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高」の「2010年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

●妊産婦死亡率の数値はWHO・ユニセフ・国連人口基金(UNFPA)の評価を反映した推定値

●総就学率は、年齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

¹ JICA 研究所ウェブサイト、

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/Mali.pdf> (2012/MAR/10 アクセス)

中央政府歳入・歳出【マリ】

	2007年	2008年	2009年	2009年		対ドルレート 472.19
	(百万CFAフラン)	(百万CFAフラン)	(百万CFAフラン)	(百万US\$)*	対GDP比**	
歳入	778,600	752,412	909,533	1,926	21.5%	GDP(現地通貨) 4,232,905
租税収入	509,700	519,426	624,292	1,322	14.7%	
社会保障	0	0	0	0	0.0%	
贈与受取	191,700	145,119	184,550	391	4.4%	
その他	77,200	87,867	100,691	213	2.4%	
歳出	509,400	525,732	620,657	1,314	14.7%	GDP(現地通貨) 4,232,905
人件費	160,300	186,009	213,529	452	5.0%	
財貨・サービス	182,200	164,728	190,198	403	4.5%	
固定資本減耗	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
利払い	14,000	14,073	15,497	33	0.4%	
補助金	0	0	0	0	0.0%	
贈与支払	89,300	75,311	92,903	197	2.2%	
扶助費	0	0	0	0	0.0%	
その他	63,600	85,611	108,530	230	2.6%	
非金融資産の純増	431,100	294,907	376,199	797	8.9%	
財政収支	-161,900	-68,227	-87,323	-185	-2.1%	

総支出内訳(目的別分類)【マリ】

	2007年	2008年	2009年	内訳	2009年	
	(百万CFAフラン)	(百万CFAフラン)	(百万CFAフラン)		(百万US\$)*	対GDP比**
総支出	940,500	820,639	996,856	100.0%	2,111	23.6%
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
農林水産業	n.a.	n.a.	n.a.	..	n.a.	n.a.
エネルギー	n.a.	n.a.	n.a.	..	n.a.	n.a.
鉱工業・建設業	n.a.	n.a.	n.a.	..	n.a.	n.a.
運輸	n.a.	n.a.	n.a.	..	n.a.	n.a.
通信	n.a.	n.a.	n.a.	..	n.a.	n.a.
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.

注: 総支出内訳における総支出には非金融資産の純増を含む 会計年度は1月～12月

*: 対ドル換算レートはOfficial Rate, Period Average 出典はInternational Financial Statistics (Online) January 2012 IMF

** : GDPの出典はThe World Economic Outlook September 2011 IMF Homepage

出典 Government Finance Statistics (CD-ROM) September 2011 IMF

JICAの対マリ技術協力

通貨単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
億円	3.81	1.78	2.61	2.84	4.28	86.96
百万ドル	3.27	1.51	2.53	3.04	4.87	

注: 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)、また対ドル換算レートはOECD Homepageによる

出典: JICA技術協力実績

対マリODA実績

《我が国》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2005年	-	20.39	2.81	23.20
2006年	-	23.51	3.22	26.74
2007年	-	6.89	2.76	9.65
2008年	-	32.01	2.52	34.52
2009年	-	32.80	2.71	35.51
累計	-4.82	479.90	76.16	551.24

《DAC諸国・国際機関》

(支出純額、単位: 百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2006年	フランス 81.62	オランダ* 66.12	米国 65.00	ドイツ 40.15	カナダ* 27.34	26.74	398.43
2007年	フランス 214.02	オランダ* 64.87	カナダ* 55.92	米国 54.00	ドイツ 40.64	9.65	558.08
2008年	カナダ* 99.12	フランス 81.90	オランダ* 79.58	米国 53.27	ドイツ 39.39	34.52	531.08

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2006年	AfDF 130.39	CEC 126.66	IDA 98.95	UNICEF 9.53	GFATM 7.53	43.78	416.84
2007年	CEC 178.66	IDA 150.55	AfDF 32.29	GFATM 17.48	UNICEF 14.50	64.70	458.18
2008年	CEC 149.04	IDA 112.77	AfDF 57.38	IMF 28.43	GFATM 20.82	63.91	432.35

注: 年の区切りは1月～12月の暦年。DAC累計ベース

出典: ODA国別データブック 2010 外務省

図表 2 貧困率等(2001-2010)²

Tableau A1. 1: Indices de pauvreté et contribution à la pauvreté selon le milieu de résidence

	%	Indicateurs de pauvreté				Contribution à la pauvreté nationale		
		Population	Incidence	Profondeur	Sévérité	P1/P0	Incidence	Profondeur
2001								
Bamako	10,7	17,6	4,2	1,2	23,9	3,4	2,1	1,2
Autre urbain	14,2	35,2	11,0	4,8	31,3	9,0	7,4	6,4
Rural	75,1	64,8	25,6	13,2	39,5	87,6	90,5	92,4
Ensemble	100,0	55,6	21,2	10,7	38,1	100,0	100,0	100,0
2006								
Bamako	10,2	7,9	2,2	0,9	27,8	1,7	1,4	1,2
Autre urbain	14,5	26,0	7,4	3,0	28,5	7,9	6,4	5,5
Rural	75,3	57,0	20,4	9,9	35,8	90,4	92,2	93,3
Ensemble	100,0	47,5	16,7	8,0	35,2	100,0	100,0	100,0
2010								
Bamako	12,3	9,6	2,5	1,3	26,0	2,7	2,4	3,0
Autre urbain	9,6	30,7	7,6	2,9	24,8	6,8	5,5	5,0
Rural	78,0	50,6	15,6	6,5	30,8	90,5	92,1	92,0
Ensemble	100,0	43,6	13,2	5,5	30,3	100,0	100,0	100,0

Tableau A1. 3: Indices de pauvreté et contribution à la pauvreté selon le groupe de région

	%	Indicateurs de pauvreté				Contribution à la pauvreté nationale		
		Population	Incidence	Profondeur	Sévérité	P1/P0	Incidence	Profondeur
2001								
Kayes-Koulikoro	30,2	65,1	24,5	12,3	37,6	35,4	34,8	34,7
Sikasso	18,4	80,1	40,1	23,3	50,1	26,5	34,7	40,1
Mopti-Ségou	31,9	51,9	17,0	7,3	32,8	29,8	25,5	21,8
Tombouctou-Gao-Kidal	8,8	30,8	7,0	2,6	22,7	4,9	2,9	2,1
Bamako	10,7	17,6	4,2	1,2	23,9	3,4	2,1	1,2
Ensemble	100,0	55,6	21,2	10,7	38,1	100,0	100,0	100,0
2006								
Kayes-Koulikoro	29,5	44,6	14,1	6,2	31,6	27,6	25,0	22,7
Sikasso	18,0	80,8	36,3	20,2	44,9	30,6	39,2	45,3
Mopti-Ségou	34,0	48,7	15,1	6,6	31,0	34,8	30,7	27,8
Tombouctou-Gao-Kidal	8,3	29,7	7,5	2,9	25,3	5,2	3,7	3,0
Bamako	10,2	7,9	2,2	0,9	27,8	1,7	1,4	1,2
Ensemble	100,0	47,5	16,7	8,0	35,2	100,0	100,0	100,0
2010								
Kayes-Koulikoro	31,5	35,5	8,5	3,0	23,9	25,6	20,1	16,9
Sikasso	17,5	83,8	31,7	14,6	37,8	33,6	41,9	46,0
Mopti-Ségou	30,2	46,8	13,6	5,5	29,1	32,5	31,0	30,2
Tombouctou-Gao-Kidal	8,5	28,9	7,2	2,6	24,9	5,6	4,6	4,0
Bamako	12,3	9,6	2,5	1,3	26,0	2,7	2,4	3,0
Ensemble	100,0	43,6	13,2	5,5	30,3	100,0	100,0	100,0

² INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 50-54
http://www.mali-apd.org/IMG/file/pdf/ACTUALITE/Rapport_ELIM_draft_06_06_11.pdf (2012/MAR/10 アクセス)

Tableau A1. 2: Indices d'extrême pauvreté et contribution à l'extrême pauvreté selon le milieu de résidence

	Indicateurs de pauvreté					Contribution à la pauvreté nationale		
	Population	Incidence	Profondeur	Sévérité	P1/P0	Incidence	Profondeur	Sévérité
	%							
2001								
Bamako	10,7	5,8	0,3	0,0	5,2	1,9	0,4	0,1
Autre urbain	14,2	15,7	4,0	1,5	25,5	6,9	5,7	4,8
Rural	75,1	39,0	12,5	5,6	32,1	91,1	93,9	95,1
Ensemble	100,0	32,2	10,0	4,4	31,1	100,0	100,0	100,0
2006								
Bamako	10,2	2,6	0,7	0,2	26,9	1,1	1,0	0,8
Autre urbain	14,5	9,9	2,3	0,8	23,2	5,9	4,7	4,0
Rural	75,3	29,9	9,0	3,9	30,1	93,0	94,3	95,2
Ensemble	100,0	24,2	7,2	3,1	29,8	100,0	100,0	100,0
2010								
Bamako	12,3	2,8	1,2	0,9	42,9	1,6	2,9	5,8
Autre urbain	9,6	11,5	2,6	0,9	22,6	5,0	4,7	4,5
Rural	78,0	26,5	6,3	2,2	25,8	93,4	92,4	89,7
Ensemble	100,0	22,1	5,3	1,9	24,0	100,0	100,0	100,0

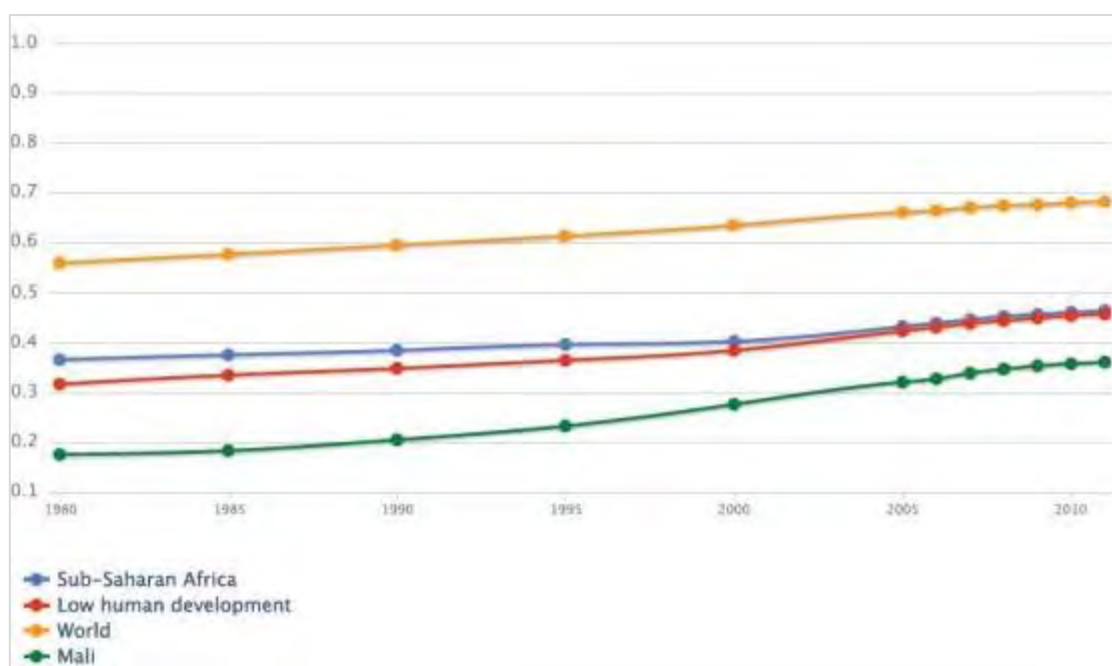
Tableau A1. 4: Indices d'extrême pauvreté et contribution à l'extrême pauvreté selon le groupe de région

	Indicateurs de pauvreté					Contribution à la pauvreté nationale		
	Population	Incidence	Profondeur	Sévérité	P1/P0	Incidence	Profondeur	Sévérité
	%							
2001								
Kayes-Koulikoro	30,2	35,6	11,5	5,2	32,3	33,4	34,6	35,8
Sikasso	18,4	63,2	24,2	11,5	38,3	36,2	44,5	48,3
Mopti-Ségou	31,9	25,9	6,0	2,0	23,2	25,7	19,0	14,6
Tombouctou-Gao-Kidal	8,8	10,2	1,8	0,6	17,6	2,8	1,6	1,2
Bamako	10,7	5,8	0,3	0,0	5,2	1,9	0,4	0,1
Ensemble	100,0	32,2	10,0	4,4	31,1	100,0	100,0	100,0
2006								
Kayes-Koulikoro	29,5	21,1	5,2	1,8	24,6	25,8	21,3	17,6
Sikasso	18,0	55,6	19,7	9,8	35,4	41,4	49,5	57,2
Mopti-Ségou	34,0	20,5	5,4	2,1	26,3	28,8	25,7	22,6
Tombouctou-Gao-Kidal	8,3	8,7	2,1	0,7	24,1	3,0	2,4	1,7
Bamako	10,2	2,6	0,7	0,2	26,9	1,1	1,0	0,8
Ensemble	100,0	24,2	7,2	3,1	29,8	100,0	100,0	100,0
2010								
Kayes-Koulikoro	31,5	13,1	2,4	0,7	18,3	18,6	14,2	11,8
Sikasso	17,5	56,9	15,3	5,5	26,9	45,0	50,6	50,1
Mopti-Ségou	30,2	22,3	5,1	1,9	22,9	30,6	29,1	29,4
Tombouctou-Gao-Kidal	8,5	11,0	2,1	0,6	19,1	4,2	3,4	2,9
Bamako	12,3	2,8	1,2	0,9	42,9	1,6	2,9	5,8
Ensemble	100,0	22,1	5,3	1,9	24,0	100,0	100,0	100,0

図表 3 HDI 指標(1980-2011 年)³

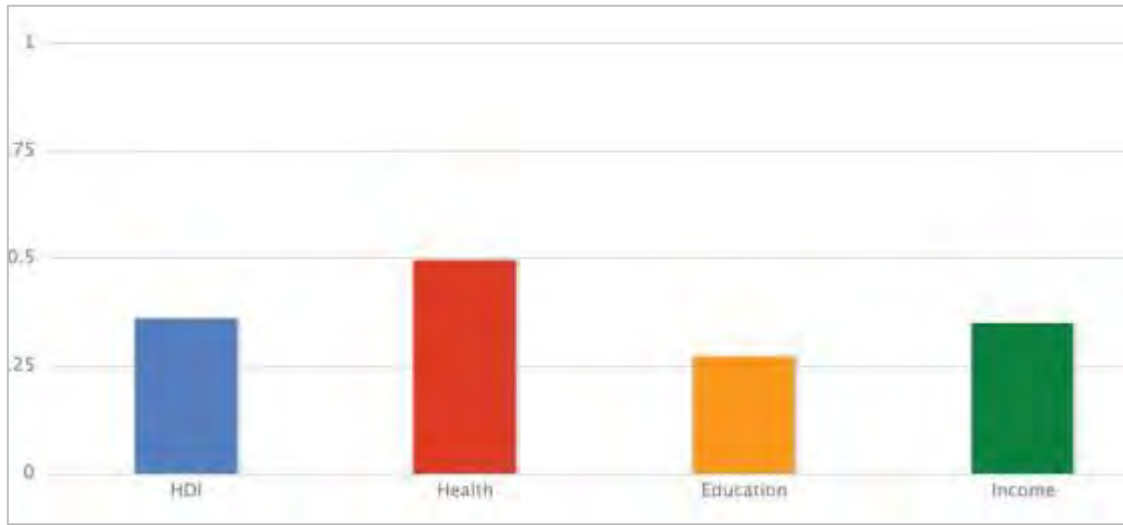
HDI Rank(2011) :175	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
HDI Index	0.174	0.182	0.204	0.231	0.275	0.319	0.326	0.338	0.346	0.352	0.356	0.359
Education Index	0.06	0.067	0.082	0.11	0.16	0.221	0.231	0.244	0.256	0.266	0.27	0.27
Health Index	0.309	0.35	0.382	0.406	0.431	0.457	0.464	0.47	0.476	0.483	0.489	0.496
Income Index	0.286	0.255	0.27	0.276	0.301	0.322	0.324	0.335	0.338	0.34	0.342	0.346

図表 4 マリ、サブサハラ諸国、世界の人間開発指標の推移等(1980-2010 年)⁴



³ UNDP website, International Human Development Indicators, <http://hdrstats.undp.org/en/indicators/103106.html> (2012/FEB/22 アクセス、表は MURC 作成)

⁴ UNDP website, International Human Development Indicators, <http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/MLI.html> (2012/FEB/22 アクセス)



図表 5 MDG 指標⁵

Objectifs	Cibles	Appréciations	Observations
Objectif 1 : Eliminer l'extrême pauvreté et la faim :	Cible 1 : Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population (<i>hommes-femmes</i>) dont le revenu est inférieur au seuil de la pauvreté ;	Pauvreté élevée	Les inégalités et la croissance démographique sont deux contraintes majeures à la réduction de la pauvreté.
	Cible 2 : Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population (<i>hommes-femmes</i>) souffrant de la faim ;	Faim modérée	La sécurité alimentaire est une préoccupation majeure. La malnutrition n'est pas encore vaincue aussi bien en milieu rural qu'en milieu urbain.
Objectif 2 : Assurer l'éducation primaire pour tous d'ici l'an 2015 :	Cible 3 : D'ici 2015, donner à tous les enfants, filles et garçons, partout dans le monde, les moyens d'achever un cycle complet d'études primaires ;	Scolarisation élevée	Des efforts concertés permettront d'atteindre la scolarisation universelle à l'horizon 2015, surtout en intensifiant les efforts actuels.
	Cible 4 : Donner un minimum éducatif aux enfants de 9 à 18 ans et aux adultes de 18 à 24 ans.	Taux d'alphabétisation faible	L'analphabétisme est une difficulté majeure dans le domaine de l'éducation. L'intensification des actions est plus que nécessaire dans une perspective de développement à long terme.
Objectif 3 : Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes :	Cible 5 : Eliminer les disparités entre les sexes dans l'enseignement primaire et secondaire, de préférence d'ici 2005 ; et à tous les niveaux de l'éducation au plus tard d'ici 2015.	Ecart faible	Les efforts déployés dans le domaine de l'éducation ont permis de réduire substantiellement les disparités entre les sexes dans l'enseignement primaire et secondaire.
	Cible 6 : Réduire les disparités entre les sexes dans la vie économique et politique.	Faible représentativité des femmes dans la vie économique et politique	Les résultats enregistrés sont certes appréciables, mais restent insuffisants compte tenu du fait que les femmes représentent plus de 50% de la population malienne.
Objectif 4 : Réduire la mortalité des enfants de moins de 5 ans :	Cible 7 : Réduire de 2/3, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans.	Mortalité infantile modérée	Le taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans reste toujours élevé, malgré une baisse constatée ces dernières années.
Objectif 5 : Améliorer la santé maternelle :	Cible 8 : Réduire de 3/4, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité maternelle.	Mortalité maternelle modérée	La mortalité maternelle reste un problème majeur de santé publique.
Objectif 6 : Combattre le VIH/SIDA, le paludisme et d'autres maladies :	Cible 9 : D'ici à 2015, enrayer la propagation du VIH/SIDA et commencer à inverser la tendance actuelle ;	Prévalence faible	D'énormes efforts ont été faits dans le domaine de la lutte contre le VIH et SIDA. L'accent devra être davantage mis sur le changement de comportement, et bien d'autres actions complémentaires.
	Cible 10 : D'ici à 2015, enrayer la propagation du paludisme et d'autres grandes maladies et commencer à inverser la tendance actuelle.	Mortalité élevée	Le paludisme et la tuberculose sont responsables d'une part importante des décès. Toutefois des efforts ont été faits, et devront être intensifiés davantage.
Objectif 7 : Assurer un environnement durable :	Cible 11 : Intégrer les principes du développement durable dans les politiques nationales et internationales et inverser la tendance actuelle à la déperdition des ressources environnementales.	Déperdition élevée des ressources naturelles	D'énormes efforts sont à faire dans le domaine de la préservation des ressources naturelles et de l'environnement.

⁵ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.108-109
http://www.undp.org/ml/index.php?option=com_docman&task=doc_download&gid=10&Itemid=
 (2012/FEB/14 アクセス)

地図 1 マリ行政区画⁶



⁶ UNDP website, <http://www.un.org/Depts/Cartographic/map/profile/mali.pdf>, (2012/FEB/22 アクセス) .

地図 2 貧困率（県別 2006 年）⁷

Carte 1 : Cartographie de la pauvreté monétaire des ménages au Mali en 2006



Pauvreté monétaire en % en 2006 au Mali



Source : DNSI_Enquête légère intégrée auprès des ménages (ELIM2006)

⁷ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p.23
http://www.unicef.org/wcaro/wcaro_mali_child_poverty.pdf (2012/MAR/10 アクセス)

I. マリの貧困状況の概観

1. マリの貧困の状況の概観

マリ共和国は西アフリカに位置し、7つの国と国境を接する内陸国であり、南部にはニジェール川、西部にはセネガル川が流れている。約124万km²の国土のうち65%が砂漠地帯で、北部にはサハラ砂漠が広がっている。気候は乾季と雨季に分かれ、地域によって気温や降雨量は大きく異なる。北部の砂漠地帯では降雨量は極めて少ないが、熱帯性気候の南部では年間降雨量が700mmを超え、昼夜の温度差が大きい。人口は比較的気候の穏やかな中央部と南部のニジェール川流域に集中している。マリ共和国には、バンバラ、ソニンケ、フルベ、ソンライ、ドゴンなど23民族が暮らしている。

政治的には非同盟を基軸としているが、西側・アラブ諸国とも協調関係を築いている。また1995年以降は平和活動として、リベリア、中央アフリカ等に派兵するなど地域の安定化にも貢献している。東アフリカ共同体（EAC: East African Community）を始めとする地域機関にも積極的に参加し、近隣諸国とも友好関係を維持している。

産業構造は農業・鉱業を中心としているため、天候や農産物の国際市場価格の影響を受けやすく、経済基盤は脆弱である。2010年時点で貧困層の81%が農業を主な生業とする世帯に属しているが、気候の変化や市場価格の影響を受けやいため、貧困改善が進まない一因ともなっている。また、人口の65%が農村部に暮らしている(2009年)⁸、都市部と農村部との貧困率には差が見られ、貧困は特に農村部で問題となっている。

保健分野においても解決すべき課題が見られる。5歳未満児の栄養状態指標は、国際的な危険水準を脱したものの、依然として急性栄養失調状態の子どもが数多く存在している。また、子どもの成長の遅れは都市部よりも農村部においてより顕著であるなど、地域間格差も見られる。

教育分野における男女格差も依然として残っており、WFP(2009)によると、12.7%の母親がコーランに基づく私的な教育を受けていたが、正式な教育を受けた者はほとんどなく、初等教育レベルの者は7.4%以下で、72.8%の母親が非識字であったと報告している。

教育を受けていない女性では39.9%が適切な介助を受けて出産しているのに対し、中等教育以上の教育を受けた女性では88.4%と大きな差がみられる⁹。

このほかにも、取り組みが始まったばかりの社会保障制度の構築や、北部地域における武装勢力の存在などに見られる治安問題、リビア情勢などにも注意を向ける必要がある。

⁸ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CSCR 2012-2017, p29
http://www.mali-apd.org/IMG/file/pdf/DOCUMENTS_CLES/1_CSCR/2012_MALI_CSCR_2012_2017_VF.pdf (2012/FEB/14 アクセス)

⁹ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.60-61, 63

II. マリの貧困削減のための政策枠組み

1. マリの貧困削減戦略・目標の現状

マリ政府は第一次 PRSP（2002-2006）終了後、2006年に第二次 PRSPとして「成長・貧困削減戦略書（CSCRП : CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE 2007-2011）」を策定した。その後、貧困削減、MDGs 達成に向けた第三次 PRSPとして CSCRП 2012-2017 を2011年12月に策定している。

CSCRП 2012-2017 では、前フェーズの CSCRП2007-2011 の結果を踏まえて、重点的に取り組むべき分野をあげている。特に、若年層の雇用問題の改善に関しては職業訓練や教育の質の向上、高等教育支援などを通じて、競争力のある人材育成に取り組むことを目指している。また2017年までの経済成長率目標を年間7%としている。

また、所得貧困に加え、生活の質も考慮して、より対策が必要な地域・階層に貧困削減対策を実施していくとしている。同時に、

- i) 各種指標が全国平均を下回っている地域への投資
- ii) 雇用と所得を生み出す活動を貧困層へ創出する
- iii) 社会保障制度の整備
- iv) ジェンダー間の公平

を通して、格差縮小にも取り組んでいく¹⁰。

また、CSCRП 2012-2017 で取り組むべき重点項目として、マリ政府は下記の10項目を設定している。

1. 年率7%以上をめざした経済成長の促進
2. 経済成長の妨げとなる恐れのあるような人口増加の抑制
3. 男女平等の促進
4. 特に若者を対象とした質の高い職業訓練・教育
5. 雇用と所得の向上を含む全国的な貧困率の削減
6. 気候変動への対応及び持続可能な環境開発
7. 近年脅かされている治安や平和の維持
8. グッドガバナンス
9. 2015年までのMDGsの達成
10. 貧困削減対策の実施の力強い推進と進捗状況のモニタリング

中長期的な目標としては、マリを力強い農林・牧畜業国家、生活の質の高い新興国へと

¹⁰ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CSCRП 2012-2017, p9

変化させることを掲げている。また、アフリカ地域・世界経済に参加すること、国民の社会福祉の向上、全国民にとって平和で安全な安定した良い統治の実現を目指していくとしている¹¹。

2. 貧困削減政策の実施状況

第三次 CSCRП 2012-2017 の策定にあたり、第二次 CSCRП の総括を行ったマリ政府によるとその評価についてはまだ定まっていない。しかし、プラス効果と課題点についてはいくつか示されている。

まず、2007-2010 年の経済成長率は目標 7%には届かなかったものの、世界的な不況の中で 4.6%の成長率を維持したと報告している。しかし、この水準の経済成長では、2015 年までの貧困率半減は厳しいとの認識を示している。貧困率は、農村部においては改善が見られたものの、2006-2010 年の都市部では悪化している。

第二次 CSCRП が成果をあげた点としては、税制改革をはじめとする行政制度の改革に進展が報告されている。また、「北部地域における発展と安全、平和のための特別プログラム(PSPSDN : Programme spécial pour la Paix, la Sécurité et le Développement dans le Nord du Mali)」を通じて、当該地域の治安状況が改善されたとしている。

母子保健の分野においても、帝王切開の無料化などの取組により妊産婦死亡率・乳児死亡率ともに改善が見られたとしている。

また、貧困地域において 5,000 戸の家屋建設を行い、そのうちの 40%を女性に提供するなど住環境を向上させる取組を行ったことも記されている¹²。

このような取組により貧困削減に向けた成果が一定程度得られた一方で、課題も報告されている。

マリでは 1960 年以来、人口が増加しており、2009 年には 1,450 万人に達している。特に都市部における人口増加は急速に進んでおり、このまま人口抑制がうまく実施されなければ、2025 年には特に人口の多いバマコ(Bamako)では、総人口の 12.5%から 16%を抱えることになることと推計している。毎年、約 30 万人の若者が労働市場に流入してくるが、職業訓練や学歴が不足し、就職するのは難しく、失業率を押し上げている¹³。また、初等教育の就学率に表れているように男女格差の解消には至らず、依然として男子の就学率が女子を上回っている状態である。

このほかにも、支援対象者の選定や、各種プログラム実施後の効果測定などが不十分であるという指摘もみられる。政府は社会的な脆弱者層を、特に高齢者、障害者、貧困者、女性と子ども、アルコール依存症などにかかっている者、洪水や旱魃などの自然災害を受

¹¹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRСRП 2012-2017, pp.35-36

¹² République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRСRП 2012-2017, pp.26-27

¹³ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRСRП 2012-2017, p28, 30

けた者などと定義し、「社会保護拡大計画：Plan d'Actions National d'Extension de la Protection Sociale 2011-2015(PAN/EPS)」を策定する等、社会的弱者にも配慮した取組を実施するとしている¹⁴。

図表 6 人口増加状況(2001-2010年)¹⁵

	Années de référence		
	2001	2006	2010
Démographie			
Population totale (en millions)	10.2	12.3	14.5 ¹
Population urbaine ² (%)	25.0	24.6	22.0
Population féminine (%)	50.3	50.1	51.4
Population âgée de < 15 ans (%)	45.9	47.9	48.8
Population âgée de 7-12 ans (%)	19.7	18.3	17.9
Taille moyenne des ménages	9.4	8.5	9.5

¹⁴ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p75

¹⁵ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.2

III. 所得貧困による分析

1. 貧困線とデータ

マリにおける貧困指標は、所得や財産所有状況、カロリー摂取量などを用いた分析により、大きく三種類に分けることができる。

一つ目は、WB やマリ政府統計機関である INSTAT が採用している所得基準による貧困指標である。本書で主に使用する所得貧困率は、INSTAT が 2011 年に発行した「ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010」に基づいている。INSTAT はこの報告書の作成にあたり、2010 年に全国 8 地域とバマコ行政区の都市部、農村部において 9,235 世帯を対象とする調査を行っている。INSTAT では 2010 年の絶対的貧困線を、食費とそれ以外を合わせた総支出額に対する一人当たりの年間総支出額 165,431 フラン (CFA)¹⁶としている¹⁷。なお、一人当たりの年間支出額により設定する絶対的貧困線は、2001 年には 144,022CFA、2006 年には 157,920CFA、2010 年には 165,431CFA と推移している¹⁸。

二つ目として、必要最低限の生活レベルを満たせるか否かを、消費財も含めた所有財産などにより点数化し合計点を算出し、点数別に 20% ずつに 5 分類して貧困度合いを測る手法も見られる¹⁹。

Quintil 1 Très pauvre (非常に貧しい)

Quintil 2 Pauvre (貧しい)

Quintil 3 Moyennement pauvre (やや貧しい)

Quintil 4 Riche (裕福)

Quintil 5 Très riche (非常に裕福)

三つ目として、摂取カロリーによる貧困線の設定が用いられることもある。ただし、これらの貧困指標はその構成要素が異なっているため、一律に比較することは難しい。

なお、INSTAT は、すべての予算を食費に投じたとしても必要最低限の栄養を確保できない層を極貧層とみなし、2010 年時点でマリ国民の約 22% がこの層に属しているとしている。2001 年の極貧層は人口の約 32% であったが、2006 年には約 24% と少しずつ改善されてきている。また極貧層の地域ごとの分布や、貧困率の推移も貧困率の動きと同様である。全国で最も極貧層が多く、深刻な地域はシカソ (Sikasso) では住民の半数以上の 57% が極貧

¹⁶ 1 ユーロ=655.957CFA フランの固定レート。外務省 Web サイト 2012/FEB/14 アクセス

¹⁷ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.9

¹⁸ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p33

¹⁹ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, pp. 125-129

層とされている²⁰。

図表 7 地域別 極貧層の貧困指標推移(2001-2010)²¹

Tableau A1. 2: Indices d'extrême pauvreté et contribution à l'extrême pauvreté selon le milieu de résidence

	%	Indicateurs de pauvreté				Contribution à la pauvreté nationale		
		Population	Incidence	Profondeur	Sévérité	P1/P0	Incidence	Profondeur
2001								
Bamako	10,7	5,8	0,3	0,0	5,2	1,9	0,4	0,1
Autre urbain	14,2	15,7	4,0	1,5	25,5	6,9	5,7	4,8
Rural	75,1	39,0	12,5	5,6	32,1	91,1	93,9	95,1
Ensemble	100,0	32,2	10,0	4,4	31,1	100,0	100,0	100,0
2006								
Bamako	10,2	2,6	0,7	0,2	26,9	1,1	1,0	0,8
Autre urbain	14,5	9,9	2,3	0,8	23,2	5,9	4,7	4,0
Rural	75,3	29,9	9,0	3,9	30,1	93,0	94,3	95,2
Ensemble	100,0	24,2	7,2	3,1	29,8	100,0	100,0	100,0
2010								
Bamako	12,3	2,8	1,2	0,9	42,9	1,6	2,9	5,8
Autre urbain	9,6	11,5	2,6	0,9	22,6	5,0	4,7	4,5
Rural	78,0	26,5	6,3	2,2	23,8	93,4	92,4	89,7
Ensemble	100,0	22,1	5,3	1,9	24,0	100,0	100,0	100,0

2. 貧困の状況 - 貧困率の分析

所得貧困率は概ね減少傾向にあり、2001年の55.6%から2006年には47.4%、2010年には43.6%と継続的に貧困率を減少させることに成功している²²。

INSTATでは、2001-2010年における貧困率改善には、経済成長や消費の再分配が貢献しているとみている。この期間に、最も貧しい層の消費レベルが40%上昇したのに対し、最も裕福な層は経済成長の恩恵を大きく受けることがなく、貧しい農村部の貧困率改善につながっている。この結果は、経済成長により貧困層が裨益したことを示している²³。

農村部における2001年の貧困率は66.8%で、都市部では24.1%であった。2006年になると、それぞれ57.6%、25.5%となっている²⁴。

なお、UNDPの2007-2008年データによれば、国民の36.1%が1日1米ドル以下で生活しており²⁵、WBは2007年の一人あたりの年間平均所得を約500米ドルと推定している。

²⁰ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.20

²¹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.51,52

²² INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.9

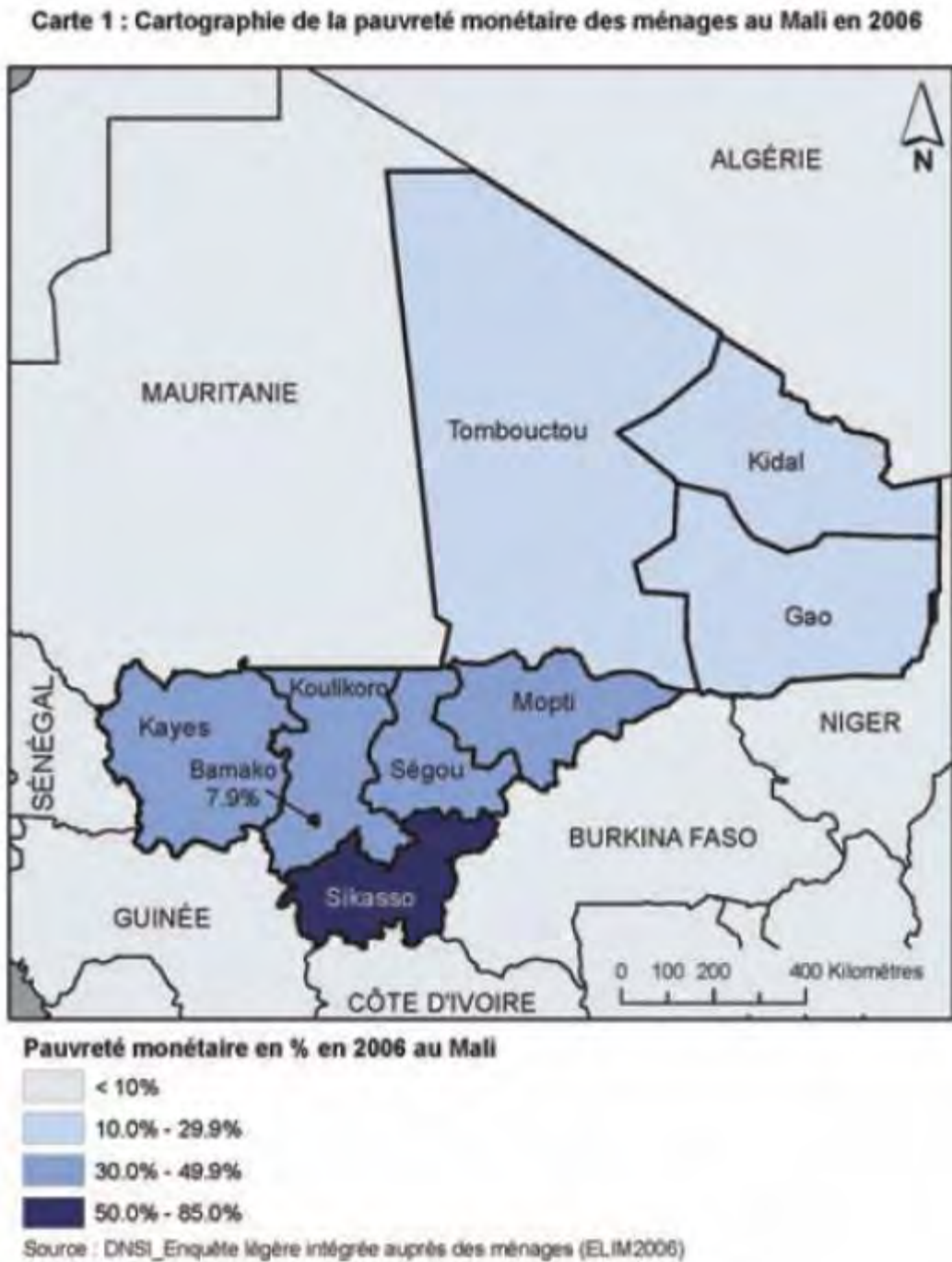
²³ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 9

²⁴ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.34

²⁵ IOM(2009), Migration au Mali PROFIL NATIONAL 2009, p. 27

http://publications.iom.int/bookstore/free/Mali_Profile_2009.pdf (2012/FEB/15 アクセス)

地図 3 貧困率（県別）（再掲）²⁶



3. 格差の分析—ジニ係数、貧困ギャップ率等

UNDP によると、2006 年の全国平均のジニ係数は 39.0 である²⁷。都市部におけるジニ係

²⁶ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 23

²⁷ UNDP website, <http://hdrstats.undp.org/fr/indicateurs/67106.html>, (2012/FEB/15 アクセス) .

数は 2001-2006 年で 33.0 から 35.5 へと推移している。マリ政府は、都市部における格差拡大の背景には非就労の世帯主の増加、自営業者の失業問題があるとしている。都市部の非就労の世帯主の割合は、2001 年には 6%であったのが、2006 年には 18%に増加している²⁸。

2010 年の貧困ギャップ率は、2006 年から 4 ポイントマイナスの 13%であった。この傾向は北部地域とバマコ (Bamako) を除き、全国的にみられるものである²⁹。2001-2006 年の期間では、貧困ギャップ率は 21.2%から 16.7%へ、二乗貧困率は 10.7%から 8.0%に改善したと報告されている³⁰。

図表 8 地域別 貧困率、貧困ギャップ、二乗貧困率(2001-2010 年)³¹

Tableau A1.1: Indices de pauvreté et contribution à la pauvreté selon le milieu de résidence

	%	Indicateurs de pauvreté			P1/P0	Contribution à la pauvreté nationale		
		Population	Incidence	Profondeur		Sévérité	Incidence	Profondeur
2001								
Bamako	10,7	17,6	4,2	1,2	23,9	3,4	2,1	1,2
Autre urbain	14,2	35,2	11,0	4,8	31,3	9,0	7,4	6,4
Rural	75,1	64,8	25,6	13,2	39,5	87,6	90,5	92,4
Ensemble	100,0	55,6	21,2	10,7	38,1	100,0	100,0	100,0
2006								
Bamako	10,2	7,9	2,2	0,9	27,8	1,7	1,4	1,2
Autre urbain	14,5	26,0	7,4	3,0	28,5	7,9	6,4	5,5
Rural	75,3	57,0	20,4	9,9	35,8	90,4	92,2	93,3
Ensemble	100,0	47,5	16,7	8,0	35,2	100,0	100,0	100,0
2010								
Bamako	12,3	9,6	2,5	1,3	26,0	2,7	2,4	3,0
Autre urbain	9,6	30,7	7,6	2,9	24,8	6,8	5,5	5,0
Rural	78,0	50,6	15,6	6,5	30,8	90,5	92,1	92,0
Ensemble	100,0	43,6	13,2	5,5	30,3	100,0	100,0	100,0

²⁸ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.33-34

²⁹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 9

³⁰ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.34

³¹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 50

IV. 所得貧困以外による分析

1. HDI による経年変化の分析と地域国際比較

マリの HDI は 2011 年時点で、187 か国中 175 位とランキングされており、1980 年時点：0.174、2000 年時点：0.275、2011 年時点：0.359 と順調に改善されてきている。しかし、隣接するアルジェリア（0.698）やセネガル（0.459）には及ばず、サブサハラ地域の平均値 0.463(2011 年)と比較しても、まだ低い水準であることがわかる。

教育関連指標は 2000 年の 0.16 から 0.27 へと 10 年間で順調に向上している。また同期間で保健・医療関連指標が 0.431 から 0.496 へととなっている。

なお、マリ政府（2009）は、出生時平均余命を UNDP とは異なるデータを用い、独自に地域別の HDI を算出している。それによると、HDI は 2002-2005 年の間に、0.419 から 0.457 へと改善しているものの、まだ世界的には HDI が低い水準であるということが認識されている³²。

図表 9 マリ 地域別 HDI(1994-2005 年)³³

Tableau 5 : Evolution de l'IDH par région, 1994-2005

	1994	1996	1998	2001	2003	2005
Kayes	0,277	0,308	0,34	0,339	0,361	-
Koulikoro	0,250	0,285	0,317	0,311	0,336	-
Sikasso	0,212	0,283	0,308	0,311	0,308	-
Ségou	0,208	0,264	0,288	0,321	0,328	-
Mopti	0,193	0,236	0,251	0,285	0,313	-
Tombouctou	0,235	0,241	0,259	0,315	0,320	-
Gao / Kidal	0,230	0,292	0,315	0,361	0,359	-
Bamako	0,393	0,526	0,588	0,553	0,569	-
Ensemble	0,305	0,323	0,336	0,359	0,371	0,381

Source : ODHD, 2006.

図表 10 マリ 人間開発指標の推移（1980-2011）（再掲）³⁴

HDI Rank(2011) :175	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
HDI Index	0.174	0.182	0.204	0.231	0.275	0.319	0.326	0.338	0.346	0.352	0.356	0.359
Education Index	0.06	0.067	0.082	0.11	0.16	0.221	0.231	0.244	0.256	0.266	0.27	0.27

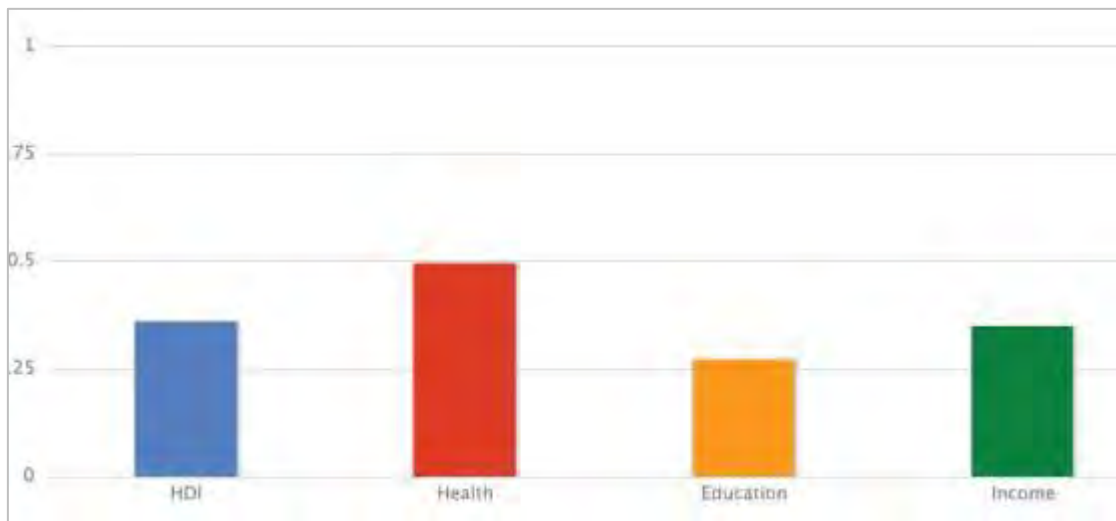
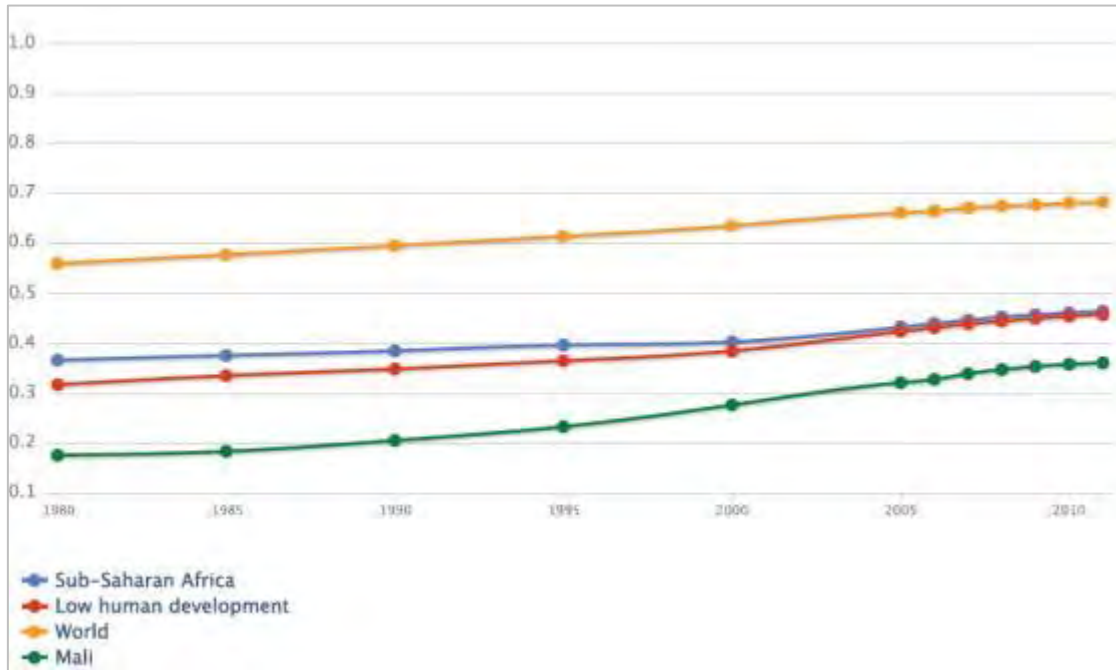
³² République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.25

³³ IOM(2009), Migration au Mali PROFIL NATIONAL 2009, p.104

³⁴ UNDP website, International Human Development Indicators

Health Index	0.309	0.35	0.382	0.406	0.431	0.457	0.464	0.47	0.476	0.483	0.489	0.496
Income Index	0.286	0.255	0.27	0.276	0.301	0.322	0.324	0.335	0.338	0.34	0.342	0.346

図表 11 マリ、サブサハラ諸国、世界の人間開発指標の推移等(再掲)³⁵



³⁵ UNDP website, International Human Development Indicators.

2. MDG 指標の分析

飲料水へのアクセス率は 2007 年の 70%から 2010 年には 75.5%となり、73.9%という MDG の目標を達成している。これ以外にも教育、HIV/エイズ対策に関しては改善傾向が見られるものの、乳幼児死亡率や妊産婦死亡率が依然として高く、保健分野では更なる努力を要する厳しい状態である。また、貧困率を 1990年と比べて半減させるという MDG の 2015 年目標についても見通しは厳しい³⁶。

食糧安全保障については、経済状況や天候不順などの外的要因に対して脆弱で不安定である。

なお、教育分野では、初等教育を完全に行きわたらせるという目標に関しては 2015 年までの達成の可能性はあるが、校舎や備品の整備、教員育成と採用などを進める必要があるとしている。初等教育における就学率は男女ともに向上しているが、中等課程以上での女子の就学率は、社会・経済的要因が壁となって男子の就学率を下回っており、性別による就学率の違いが問題視されている³⁷。

図表 12 教育関連指標(2001-2010 年)³⁸

Taux net de scolarisation au primaire I (7-12 ans) par groupe de région

	Ensemble		
	Masculin	Féminin	Ensemble
	2001		
Kayes-Koulikoro	36,9	25,3	31,5
Sikasso	35,6	25,3	30,8
Mopti-Ségou	23,5	21,6	22,6
Tombouctou-Gao-Kidal	43,6	29,1	36,8
Bamako	58,8	56,6	57,6
Ensemble	34,8	27,5	31,3
	2006		
Kayes-Koulikoro	55,6	50,1	53,0
Sikasso	56,5	49,0	53,1
Mopti-Ségou	50,1	47,0	48,5
Tombouctou-Gao-Kidal	66,7	62,4	64,8
Bamako	88,7	80,6	84,7
Ensemble	57,8	52,4	55,2
	2010		
Kayes-Koulikoro	61,3	51,4	56,5
Sikasso	62,1	56,0	59,1
Mopti-Ségou	44,5	44,5	44,5
Tombouctou-Gao-Kidal	50,2	45,7	47,9
Bamako	78,3	72,1	75,0
Ensemble	56,7	51,8	54,3

5 歳未満児の死亡率は出生 1,000 人につき 191 人(2006 年)と高く、2015 年の 79.6/1,000

³⁶ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, pp.25-26

³⁷ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.97-99

³⁸ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.79

人という目標達成には 2006-2015 年で死亡率を年率 9.3%で削減する必要があり、状況は厳しい³⁹。妊産婦死亡率に関しては、マリでは 1 日あたり、8 人が妊娠・出産の過程で死亡している。出産 10 万件当たりの死亡率は、2001 年に 582 人、2006 年には 464 人と改善してきているが、2015 年に 146 人とする目標に到達することは難しいとみられている⁴⁰。

保健当局が監視対象としている 24 の病気のうち、マラリアと結核はマリにおける主要な病気でもある。これらの病気の蔓延防止が重要であるが、現在は、ワクチン不足、病院サービスの質の低さなどが課題となっている。また、マラリアに関しては、下水道が未整備である等の理由から蚊の発生を抑えることができず、課題となっている⁴¹。

図表 13 乳幼児死亡率関連指標(2001・2006 年)⁴²

Tableau 11 : Evolution de quelques indicateurs d'impact liés à la mortalité de l'enfant

Indicateurs	2001	2006
Taux de mortalité infantile en ‰	113,4	96
Taux de mortalité infanto-juvénile en ‰	229,1	191
Taux de mortalité juvénile en ‰	130,5	105
Taux de malnutrition chronique en %	38,2	38
Taux de malnutrition aiguë en %	10,6	15
Insuffisance pondérale en %	33,2	27,0
Rougeole en %	49	68
Taux de couverture vaccinale DTCP enfants de moins 1 an en %	90	92
taux de mortalité néonatal ‰ ⁶		46

Source : EDSM III et IV

図表 14 結核罹患率と死亡率(2002・2006 年)⁴³

Tableau 6 : Incidence, prévalence et mortalité liées à la tuberculose, 2000-2006

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
Incidence de la tuberculose* (pour 100 000)	288	287	285	284	282	281	280
Taux de prévalence de la tuberculose (pour 100 000)	605	601	592	589	587	583	578
Taux de mortalité lié à la tuberculose (pour 100 000)	40	40	39	39	40	40	40

Source : Banque Mondiale, 2008.

* Nombre de nouveaux cas dans une population déterminée pendant un période donnée sur l'ensemble de la population.

環境分野の目標達成状況に関しては、まだ十分なデータが蓄積されておらず、判断することが難しいが、農地拡大や燃料用に木材を伐採しており、森林破壊が確認されている。

³⁹ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 83

⁴⁰ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.62

⁴¹ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.75, 79, 99

⁴² République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.55

⁴³ IOM(2009), Migration au Mali PROFIL NATIONAL 2009, p.104

近年は特に南部のカディオロ(Kadiolo)、キタ(Kita)、ケニエバ(Kéniéba)において、中国への輸出用木材としての伐採が継続的に行われている⁴⁴。また、砂漠化、緑地の減少、ニジェール川における砂の堆積、水不足、生物多様性の減少などが同分野における課題として認識されている⁴⁵。

3. 食糧安全保障・脆弱性による分析

1970-1998年の間に、マリは46回の重大な災害に見舞われており、世界48カ国の途上国のうち12番目に災害の被害を受けた国として位置付けられている。2007-2008年の期間には全世帯の約3分の1が旱魃(11.6%)、時期外れの降雨(6.3%)、洪水(5.3%)などの被害を受けている。2009年には人口の20%に相当する280万人が旱魃の被害を受け、食糧安全保障が脅かされたと報告されている⁴⁶。

WFPでは摂取食物を8分類し、それぞれのグループに計数を配点して食糧安全保障度を測っている。スコアが28以下を、食糧安全保障が深刻な貧困状態、 $28.5 \leq 42$ をやや緩やかな貧困状態、42を超えた場合は食糧安全保障がなされている、と分類している。この基準で2007-2008年を比較すると、農村部における食糧摂取状況は改善が見られる。しかし、大きな変化が見られないことから、慢性的に食糧不安に置かれている層が存在するとみられる。地域別では、食料生産の端境期に食料不安になりやすいのは、キダル(Kidal)が41%、トンプクトゥ(Tombouctou)が19%となっている(2008年)。収穫後に食料不安になるリスクはガオ(Gao)が20%、シカソ(Sikasso)が17%となっているが、同時期にカイ(Kayes)の食糧安全保障は95%、キダル(Kidal)においてはほとんど食料不安に陥ることはないという結果が出ている⁴⁷。

政府による2008年の調査では、無料の食料配布実施が必要なほどの食料危機に陥った地域は認められなかったが、早期警戒システム(SAP : *Système d'Alerte Précoce*)は、収穫量の減少、またはそれに伴う収入減少によって、経済的にやや危険な地域として34自治体を指定している⁴⁸。しかしマリ政府によると、2009年からの3年間においては、特に穀類の生産が順調で大きな食料不安に陥ることはなかった⁴⁹。ただし、2011年から西アフリカのサヘル地域一帯で旱魃が起こっており、穀物類をはじめとする収穫量の減少にともない、食糧安全保障の危機が報告されている。また、この気象要因による危機に加え、主に北部

⁴⁴ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.134
http://hdr.undp.org/en/reports/national/africa/mali/Mali_RNDH_2010.pdf (2012/FEB/14 アクセス)

⁴⁵ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.87

⁴⁶ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, pp.23-24

⁴⁷ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), pp.51-59

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp202667.pdf> (2012/FEB/14 アクセス)

⁴⁸ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.59

⁴⁹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.24

地域で繰り広げられている紛争から逃れるため、約 6.3 万人の国内難民、約 6 万人の国外難民が出ており、食糧安全保障状況は悪化している⁵⁰。

なお、マリ政府は MDGs 達成に向けた取り組みの一環として「食料保障国家計画 (PNSA: Plan National de Sécurité Alimentaire)」を策定している。これは、SAP による調査で 1984 年から 2004 年の期間に食糧安全保障が満たされていないと判断された 166 の農村部の自治体を対象とするものである。トンブクトゥ(Tombouctou)、キダル(Kidal)、ガオ(Gao)、モプチ(Mopti)、セグー(Ségou)、カイ(Kayes)、クリコロ(Kouliloro)の MDGs 目標達成促進地域として指定された 166 の自治体には 3,052 の村・地区が存在し、200 万人以上が暮らしている⁵¹。

図表 15 経済的に危機にあると指定された地域(2008 年)⁵²

Tableau 8 : localités en difficultés économiques en 2008

Régions	Cercles	Communes	Populations
KAYES	DIEMA	Dranguardé	10728
		Diema	23988
		Diomana Koustata	13542
		Fassou Debe	4638
	NIORO	Dhagné	9402
		Dhaye Couza	12215
		Goga	11984
		Korera Koré	18393
		Baniyé Koré	6008
		Datta	7030
Total région Kayes			117 928
KOULIKORO	BANAMBA	Toukoroba	11227
		Allahna	10095
	NARA	Dabo	8255
		Dogobv	30303
		Guénéré	7778
		Korouga	9842
Total région Koulikoro			77 500
SEGOU	MACINA	Macina	29151
	Total région de Ségou		29151
MOPTI	BANDIAGARA	Dandoh	8950
		Métouanon	13715
		Ondougou	5636
		Ségoaré	13907
Total région de Mopti			42208
TOMBOUCTOU	GOURMA RHAROUS	Hamzakoua	4330
		Séré	7395
	GOUNDAM	*Tonka localisé	15000
	Total région Tombouctou		
GAO	ANSONGO	Bata	11903
	BOUREM	Bamba	27019
		Tennéra	172779
	Gao	*Gabero localisé	7500
	Total région Gao		
KIDAL	ABEIBARA	Abeibara	4573
		Boghassa	3228
		Tinzawatène	1351
	TESSALIT	Adjelluc	6465
		Tessalit	6305
		Tuntaghene	1768
	Total région de Kidal		
		Total Général	376 403

Source : CSA

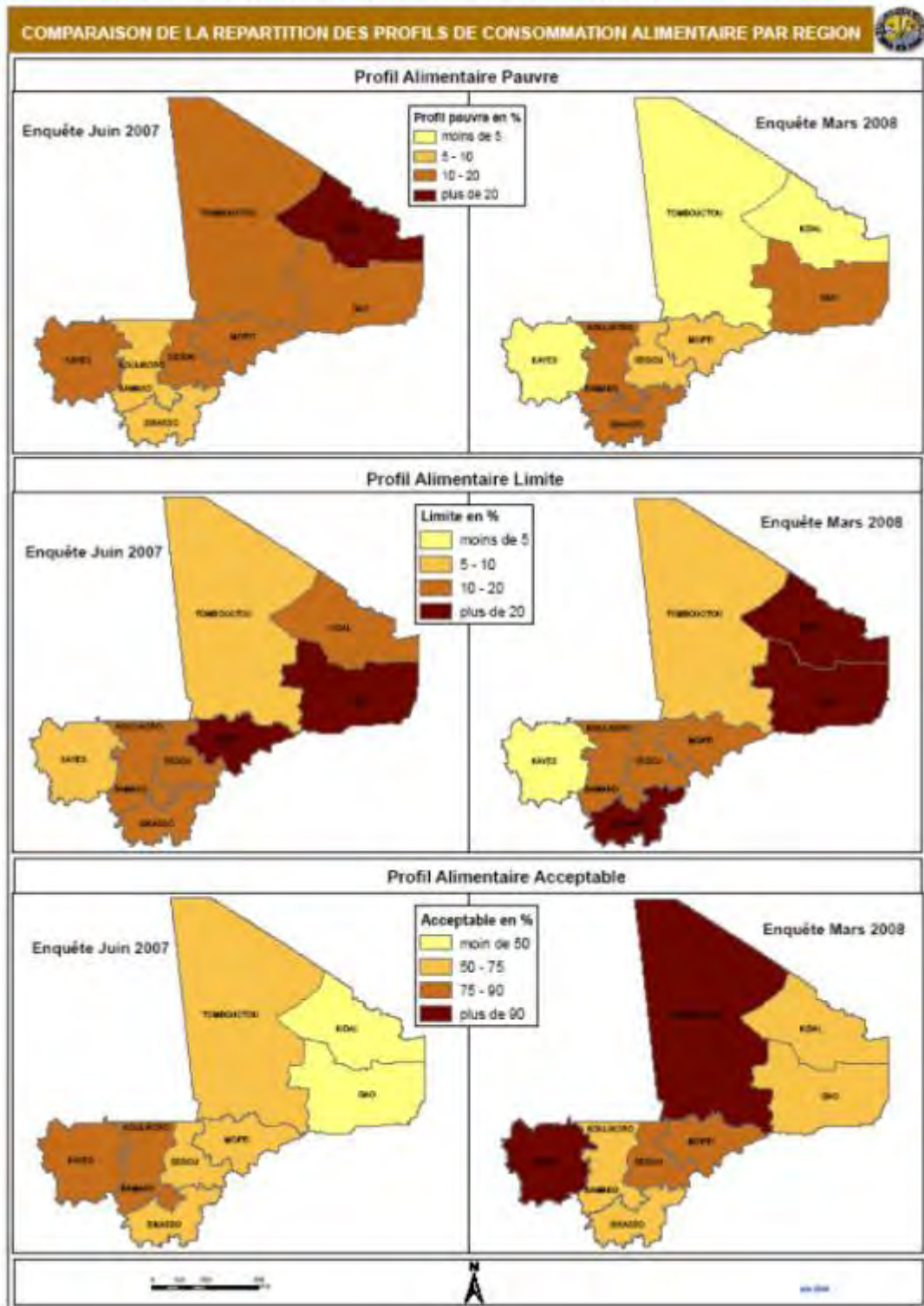
⁵⁰ UN website, <http://www.un.org/apps/newsFr/storyF.asp?NewsID=27758&Cr=Sahel&Cr1=>, (2012/MAR/14 アクセス) .

⁵¹ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.28

⁵² République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.59

地図 4 食糧安全保障上、経済的に危険だとされる自治体 (2008)⁵³

Figure 16: Carte des profils de consommation alimentaire par régions administratives (EBSAN I et II)



⁵³ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.57

V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析

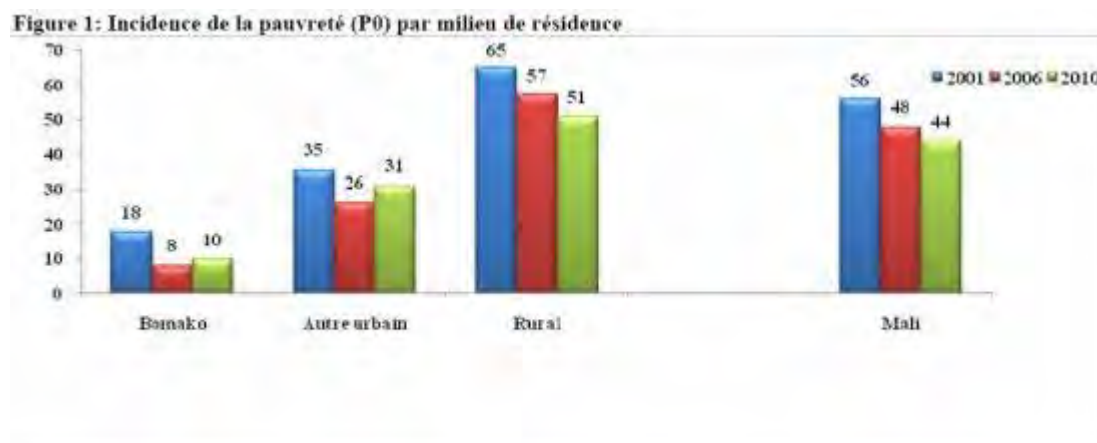
1. 地域別の特徴

マリでは、2009年現在、人口の65%が農村部に暮らしている⁵⁴。農村部の貧困率は2001-2010年までの10年間で65%から51%へ、都市部では35%から31%へと改善している。

地域別にみると、シカソ（Sikasso）は全国最悪の貧困率を記録しており、10人に8人が貧困層に属し、貧困率の改善が見られないと報告されている。その他の地域では貧困率は改善する傾向にあり、特に人口の30%が暮らすカイ・クリコロ（Kayes-Kouliloro）地域は改善が見られる⁵⁵。

首都に関しては、貧困率が2001年の17%から2006年までに10ポイント減少したが、その後、2010年には2ポイント増加に転じている。INSTATでは貧困率悪化の原因を、農村部からバマコ（Bamako）へ大量に住人が流れ込んだことや、外国移住者の帰還、コートジボワールやギニアなどの隣接諸国からの移住にあるとみている⁵⁶。

図表 16 地域別 貧困率の推移(2001・2010年)⁵⁷



2. 性別（男女別）

15歳以上の識字率はどの地域においても女性の方が低く、2010年の女性識字率は18.8%、男性は41.6%となっている。農村部の女性の識字率は12.1%にとどまっている⁵⁸。

⁵⁴ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.29

⁵⁵ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 9, 19

⁵⁶ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 18

⁵⁷ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 18

⁵⁸ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES

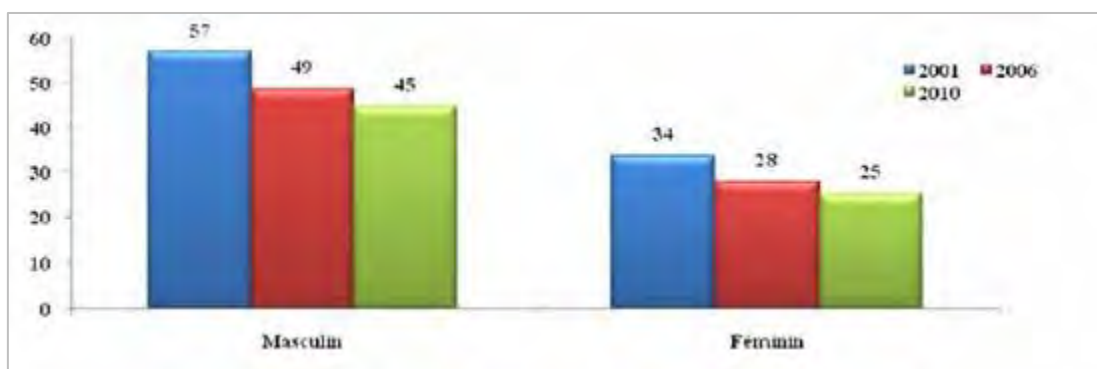
失業率は男性よりも女性の方が高く、都市部における女性の失業率は男性の2倍となっている。また、一定の職業スキルが求められるフォーマルセクターにおける女性の雇用率は男性を下回っている⁵⁹。

世帯主の性別で貧困率を比較すると、女性世帯主よりも男性世帯主の方が高く、2006年の男性世帯主の家庭の貧困率は48.7%、女性世帯主では28.1%となっている⁶⁰。

また、女性世帯主の方が食料不安に陥るリスクは低いという調査結果も出ている。WFP(2009)では、統計的には有意な数字であるとしながらも、世帯主の性差による食糧安全保障状況の違いの原因を女性世帯主の方のサンプル数が少ないことが一因の可能性があると分析している⁶¹。

図表 17 世帯主の性別にみた貧困率の推移 (2001-2010年)⁶²

Figure 8: Incidence de la pauvreté(P0) selon le sexe du chef de ménage



図表 18 世帯主の性別 食糧安全保障状況 (2008年)⁶³

Classe	Genre Chef de Ménage	
	Homme (n = 2383)	Femme (n = 94)
Insécurité alimentaire sévère (%)	11.1	8.6
Insécurité alimentaire modérée (%)	17.1	11.4
Sécurité alimentaire (%)	71.8	80.0

MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 98

⁵⁹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, pp.66-67

⁶⁰ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.34

⁶¹ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.58

⁶² INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 22

⁶³ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.58

3. 学歴別にみた特徴

マリ政府(2011)は、学歴が高いほど給与も高く、固定収入が保証される傾向にあると分析している⁶⁴。

学歴と貧困に注目すると、世帯主が中等課程または大学卒の場合は、教育を受けていない世帯主に比べて貧困率に6倍の差が出ると報告されている。公務員は学歴が高い一方、農業従事者の10人に9人が一度も教育を受けたことがないという結果が出ている。公務員の貧困率は12.2%で最も低いのに対し、綿花栽培農家やその他の被雇用者世帯は、世帯主が非就労者である場合よりも貧困率が高く、収入格差と学歴が相関しているといえる⁶⁵。

また、WFP(2009)は、世帯主の教育レベルが高いほど、食料不安に陥るリスクは低くなると報告している⁶⁶。

また、2010年の15歳以上の識字率は、都市部では53.2%、農村部では21.6%となっており、地域間で格差が存在している。同年の全国平均識字率は29.4%で、最も識字率が高いのはバマコ(Bamako)の55.8%となっている⁶⁷

図表 19 世帯主の職業と貧困指標 (2001・2006年)⁶⁸

Tableau 4 : Indicateurs de pauvreté en 2001 et 2006 par catégorie sociale du chef de ménage

		Incidence (%)		Profondeur (%)		Sévérité (%)	
		2001	2006	2001	2006	2001	2006
Sexe du chef de ménage	Homme	57,0	48,7	21,9	17,1	11,1	8,3
	Femme	33,8	28,1	10,5	9,0	5,0	4,0
Groupe socio-économique du chef de ménage	Salarié Public	7,1	12,2	3,8	3,4	1,9	1,4
	Salarié Privé	26,0	29,5	5,9	9,1	2,0	3,4
	Employeur	17,0	16,1	4,4	5,0	1,6	2,1
	Indépendant agricole	70,1	59,32		21,1		10,2
	Indépendant non agricole	27,8	22,7		6,4		2,8
	Autres employés	61,7	707,2		27,3		12,7
	Sans emploi	48,4	49,4	12,6	19,0	4,2	9,6
Niveau de scolarisation du chef de ménage	non instruit		53,0		18,9		9,2
	Fondamental 1		42,5		14,1		6,5
	Fondamental 2		23,4		6,5		2,6
	secondaire		9,7		1,8		0,5
	supérieur		8,8		3,9		1,8

Source : Cellule Technique CSLP, DNSI, ODHD (2007)

⁶⁴ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.67

⁶⁵ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.36-37

⁶⁶ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), pp.51-59

⁶⁷ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p.37, 44

⁶⁸ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.38

図表 20 学歴別の食糧安全保障状況 (2008 年) ⁶⁹

Milieu	Classe	Niveau d'instruction						Total (n=2477)	
		Aucun (n=1693)	Fond. 1er cycle (n=182)	Fond. 2eme Cycle (n=62)	Secondaire (n=64)	Supérieur (n=22)	Coranique (n=364)		Alphabétisation (n=90)
Rural	Insécurité alimentaire sévère	9,7	7,5	26,6	2,0	0,0	3,8	4,1	8,4
	Insécurité alimentaire modérée	19,7	12,5	7,5	5,8	8,9	10,9	28,3	18,4
	Sécurité alimentaire	70,5	79,9	65,9	92,2	91,1	85,2	67,6	73,2
Urbain	Insécurité alimentaire sévère	2,3	2,2	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	1,1
	Insécurité alimentaire modérée	9,8	3,1	12,4	1,9	0,0	8,4	0,0	6,5
	Sécurité alimentaire	87,9	94,6	87,6	98,1	100,0	91,6	100,0	92,3

図表 21 地域別 識字率の推移(2001-2010 年)⁷⁰

Figure 51: Taux d'alphabétisation des 15 ans et plus par groupe de région de 2001 à 2010



4. 年齢階層

食糧安全保障状況について見ると、世帯主が 40 歳以下で深刻な食料不安に陥っているのは農村部では 8%、やや緩やかな食料不安状態であるのが 23%である。都市部においては世帯主が 40-55 歳の年齢階層では深刻な食料不安状態にあるのは 1%で、やや緩やかな食料不安状態にあるのは 10%となっている。世帯主が 55 歳以上になると、食料不安に陥るリスクは居住地によらず軽減している。WFP では、世帯主が 55 歳以上の場合、子どもが労働できる年齢に達し、世帯当たりの収入が増加することが原因だと指摘している⁷¹。

また、15 歳以上の全国平均の識字率は 29.4%(2010 年) で、15-24 歳の階層では、農村部では 33.1%、都市部では 63.7%となっている。しかし、25-64 歳の階層では、農村部で 17.7%、都市部で 42.5%となっており、年齢層が高いほど識字率が低いことが読み取れる⁷²。

⁶⁹ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.59

⁷⁰ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 44

⁷¹ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.58

⁷² INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 97

図表 22 年齢階層別識字率 (2010年)⁷³

Taux d'alphabétisation par milieu de résidence des individus âgés de 15-24 ans			
	Masculin	Féminin	Ensemble
2010			
Bamako	79,2	51,1	63,8
Autre urbain	73,1	54,8	63,7
Rural	44,4	23,4	33,1
Ensemble	54,1	32,1	42,3

Taux d'alphabétisation par milieu de résidence des individus âgés de 25-64 ans			
	Masculin	Féminin	Ensemble
2010			
Bamako	63,8	37,8	51,8
Autre urbain	54,9	30,6	42,5
Rural	30,1	7,9	17,7
Ensemble	37,9	13,3	24,6

5. 就職状況 (職業)

職業別にみると、農業従事者世帯の貧困率は **57.3%** で最も高い。国民の約 **62%** は主な経済活動手段として農業を営む世帯で暮らしている。次いで、非就労者世帯の貧困率が **29%**、自営業者が **23%**、民間企業の被雇用者が **19%** となっている。

貧困層の **81%** が農業従事者であることから、貧困削減のためには農民の生活状況を改善する必要があると INSTAT は指摘している⁷⁴。

第一次産業と第三次産業における就労者の割合はそれぞれ、全産業分野の **63%** と **25%** となっている。インフォーマルセクターの不安定な雇用が増加傾向にあり、全労働人口のうち、官民のフォーマルセクターにおける雇用は **6%** となっている。雇用・職業訓練省 (Ministère de l'Emploi et de la Formation Professionnelle) は全職種・雇用期間を合わせて、**2010** 年には **23,828** 人分の新規雇用を行ったが、雇用問題、失業対策は依然として大きな課題となっている。農村部から都市への人口流入が起こっており、それにともない失業率が悪化している。**2010** 年のバマコ(Bamako)の失業率は **25%** と報告されている⁷⁵。

マリにおいては財産譲渡による収入も大切な要素である。貧困世帯にとっても、私財の譲渡は重要な収入源となっており、**2006** 年では、貧困世帯の収入の約 **14%** を占めている。貧困世帯の第一の収入源は農作物の販売や小規模な商売で、収入の **55%** 以上を占めるが、富裕世帯ではわずかに **20%** ほどである。この世帯での主要な収入源は農業以外の給与によ

⁷³ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 97

⁷⁴ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 21-22

⁷⁵ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, pp.66-67

るもので、収入の約 62%を占めている⁷⁶。

食糧安全保障に関しては、給与所得階層はほとんど危機にさらされることはない。2008年3月時点で食糧安全保障が深刻な状態であったのは、都市部ではわずかに1%であったのに対し、農村部では8%となっている⁷⁷。ただし、西アフリカ・サヘル地域はこれまでたびたび旱魃に見舞われており、気候要因によって食糧安全保障状況が左右されやすいという脆弱性を抱えている。2011年にはこの地域全体の穀物生産量が25%減少するなどの被害が報告されている⁷⁸。

図表 23 職業別 貧困指数(2010年)⁷⁹

	Tableau A1. 7: Indices de pauvreté et contribution à la pauvreté selon le groupe socio-économique								
	%	Indicateurs de pauvreté				P1/P0	Contribution à la pauvreté nationale		
		Population	Incidence	Profondeur	Sévérité		Incidence	Profondeur	Sévérité
	2010								
Salarié public	5,3	14,8	3,1	1,2	20,9	1,8	1,2	1,1	
Salarié privé	5,8	18,5	4,3	1,6	23,2	2,5	1,9	1,7	
Employeur	1,2	6,3	1,2	0,5	19,0	0,2	0,1	0,1	
Agriculteur	61,8	57,3	18,2	7,7	31,8	81,2	84,8	85,8	
Autre indépendant	20,1	22,8	5,9	2,3	25,9	10,5	9,0	8,5	
Sans emploi	5,8	28,5	6,8	2,6	23,9	3,8	3,0	2,8	
Ensemble	100,0	43,6	13,2	5,5	30,3	100,0	100,0	100,0	

⁷⁶ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 33

⁷⁷ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), pp.51-59

⁷⁸ UN website, <http://www.un.org/apps/newsFr/storyF.asp?NewsID=27758&Cr=Sahel&Cr1=> (2012/MAR/13
アクセス)

⁷⁹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 52-53

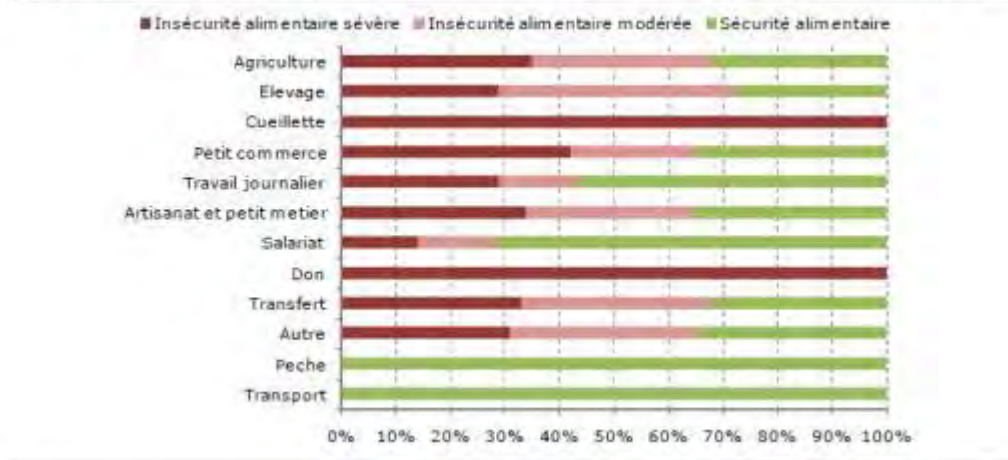
図表 24 貧富別 世帯収入源(2006年)⁸⁰

Tableau 2.4 Composition des revenus des ménages par provenance des revenus (ensemble des ménages)			
Sources de revenus	Non pauvre	Pauvre	Total
Vente de produits agricoles	20,8	55,7	27,4
Salaires et revenus des activités non agricoles	61,5	27,8	55,0
Transferts publics reçus par le ménage	3,3	1,5	3,0
Transferts privés reçus par le ménage	10,2	14,2	10,9
Autres revenus	4,3	0,8	3,6
Total	100,0	100,0	100,0

Source : ELIM 2006 (DNSI, 2007)

図表 25 職業別 食糧安全保障状況 (2008年)⁸¹

Figure 17: Proportion des ménages (en %) selon l'activité principale et la classe d'insécurité alimentaire



6. 社会サービス・基本インフラへのアクセスと貧困

(1) 飲料水へのアクセス

安全な水へのアクセス率は2010年には75.5%となり、73.9%というMDGs目標を達成した。しかし、2001(75.5%)から2006(78.3%)年にかけて、アクセス率は改善したものの、2006-2010(72.4%)年はやや低下している。これは、人口増加のスピードに対してインフラ整備が追い付いていないことによるものと考えられる⁸²。地域別では、都市部では

⁸⁰ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 33

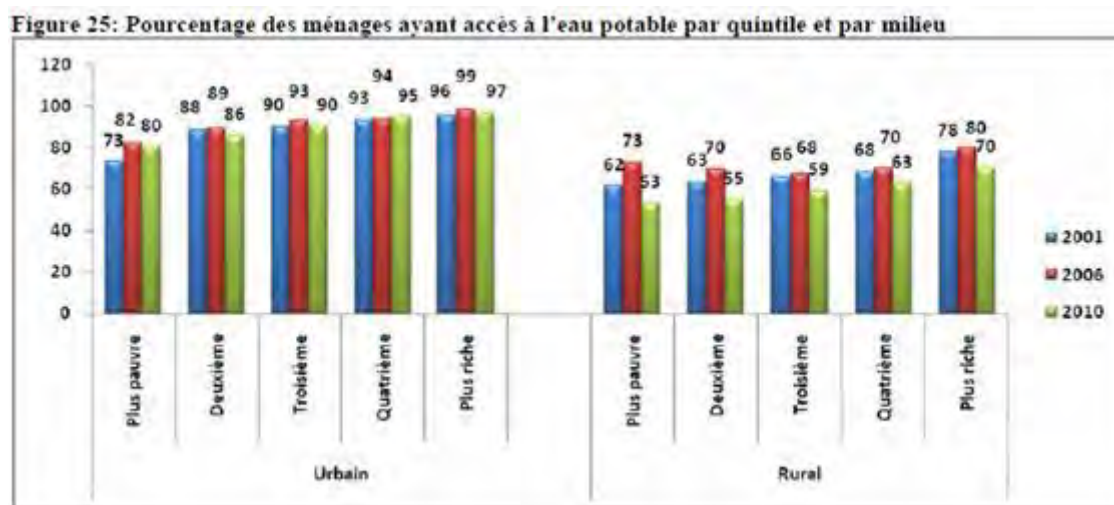
⁸¹ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.59

⁸² République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE

2001年の93.3%からほぼ変わらず2010年は93.9%となっている。同期間での農村部における飲料水へのアクセス率は67.9%から60.6%へと低下している。農村部における最も貧しい層では52.8%のアクセス率であるのに対し、最も裕福な層では70.1%となっており、大きな差が見られる⁸³。

飲料水へのアクセス率向上の背景には、都市部における25か所の給水システムの整備がある。2008年には全国に29,811か所の給水所が整備されている⁸⁴。

図表 26 貧富階層別にみた水へのアクセス率(2001-2010年)⁸⁵



LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.25

⁸³ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 33

⁸⁴ République du Mali(2010),Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.26

⁸⁵ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 34

図表 27 地域別 水源(2008年)⁸⁶

Table 2: Sources d'approvisionnement en eau par système de vie et régions administratives

régions	Robinet (%)	Forage / pompe (%)	Puits améliorés (%)	Puits traditionnels (%)	Puisard (%)	Eau de surface (%)	Autres (%)	Total sources protégées (%)
Kayes	17	42	3	32	0	6	0	62
Koulikoro	19	17	13	52	0	0	0	49
Sikasso	17	25	5	52	0	1	1	47
Ségou	15	17	9	58	1	0	0	41
Mopti	3	14	56	22	0	3	2	73
Tombouctou	42	9	32	10	2	6	0	83
Gao	10	2	4	2	28	18	35	16
Kidal	44	1	8	28	0	20	0	53
Bamako	99	1	0	1	0	0	0	99
Total	26	16	15	33	3	4	3	57

(2) 医療・保健サービスへのアクセス

マリ政府は地域保健センター (CSCOM : Centre de Santé Communautaire) の建設を進めており、2003-2007年 で 25%増設し、全国で 826 か所が設置されている。2007年には人口の 53%が居住地から 5km 圏内にアクセスできる保健施設があるとされている⁸⁷。

また、WFP (2009) による調査では、47%の村または地区で、少なくとも 1 件は薬局があると報告されている。それ以外の 53%の場所では、薬を入手するためには近隣の町へ出かけるなければならない。最も薬局にアクセスしやすいのは、バマコ(Bamako)以外ではシカソ(Sikasso)で、アクセス率は 61%、最も不便なのがガオ(Gao)とキダル(Kidal)で 29%となっている⁸⁸。

結核検診の受診率に関しては、2004年 (18%) から 2009年 (29%) まで順調に伸びていたが、2010年は 20%とやや低下した。マラリア対策はなかなか進まず、検査設備の不足などもあり、わずかに 19%がマラリアの治療を受けている。また、5歳未満でマラリアと診断された者のうち、24時間以内に治療を受けたのは 23%にとどまっている⁸⁹。

(3) 衛生的なトイレへのアクセス

全国的に、穴を掘って作った野外のトイレを使用するのが最も一般的で、2010年には約 75.6%がこのタイプを利用している。水洗トイレの利用率はわずかに 5%で、都市部の富裕層 (11.0%) に限られている。バマコ (Bamako) を除き、全国的に野外で排泄する割合が 2010年までの 10年間で増加しており、都市部では 4.6%、農村部では 27.0%となっている。

⁸⁶ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.33

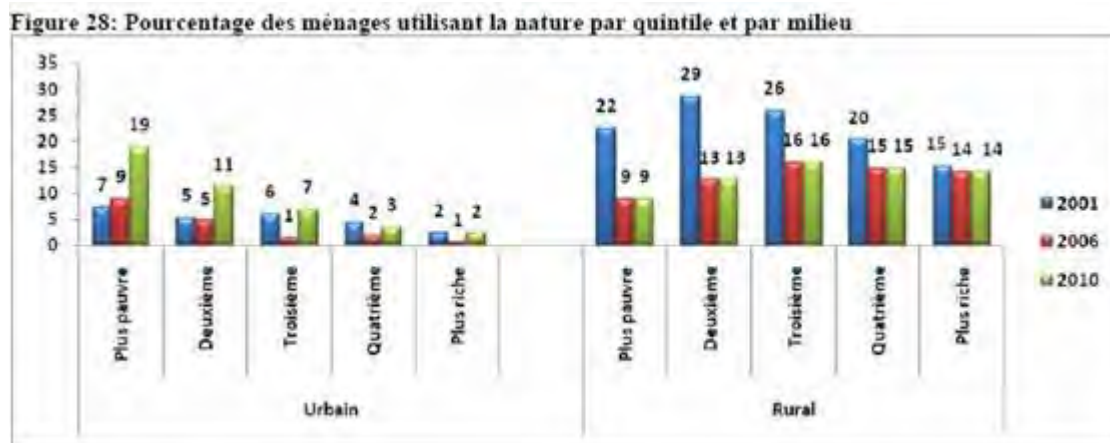
⁸⁷ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.24-25

⁸⁸ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.31

⁸⁹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.25

特にトンプクトゥ-ガオ-キダル(Tombouctou-Gao-Kidal)では 42.4%に上る⁹⁰。

図表 28 貧富階層別及び地域別の野外での排泄率(2001-2010 年)⁹¹



(4) 電気エネルギーへのアクセス

電気エネルギーへのアクセス率は 2001 年には 9.2%であったが、2010 年は 23.6%に向上した。都市部、農村部ともにアクセス率の向上が見られ、それぞれ 60.1%、11.0%となっている。電気へのアクセス率はどの階層においても伸びているが、特に都市部の上位 40%の富裕層のアクセス率向上が目立つ。農村部における電気へのアクセス率は全般的に低い。ここでも富裕層は 28.3%が電気を利用することができている⁹²。

炊事に電気またはガスを利用する世帯はほとんどなく、全世帯の 1.6%である。2010 年の調査によると、2006 年からは 12 ポイント減少したものの、全世帯の 73.6%の世帯が炊事用のエネルギー源を木材に頼っており、依然として主要なエネルギー源であることが示されている。農村部における主要エネルギー源は木材で、87.4%が木材燃料を利用している一方で、都市部においては石炭の利用が増加する傾向にあり、2001 年には 29%であったのが 2010 年には 41%となっている。INSTAT は、裕福な世帯ほど炊事に石炭を使用していると報告している⁹³。

⁹⁰ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 11, 34

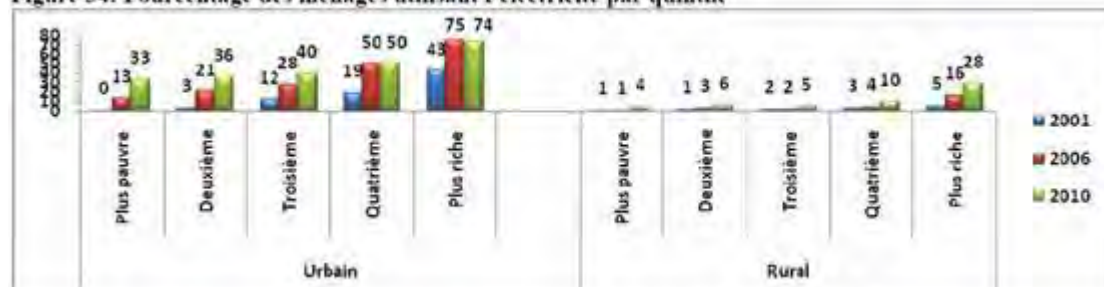
⁹¹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 35

⁹² INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 11, 37

⁹³ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 11,35-36,

図表 29 貧富階層別の電気エネルギーへのアクセス率の推移 (2001-2010 年) ⁹⁴

Figure 34: Pourcentage des ménages utilisant l'électricité par quintile



図表 30 地域別の電気へのアクセス率(2001-2010 年) ⁹⁵

Tableau A3. 25: Pourcentage des ménages utilisant l'électricité par milieu de résidence

	2001	2006	2010
Bamako	36,1	70,5	69,8
Autre urbain	21,8	47,2	46,8
Rural	2,4	4,6	11
Ensemble	9,2	20,1	23,6

⁹⁴ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 37,

⁹⁵ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 75

図表 31 貧富階層別の炊事用エネルギー源(2001-2010年)⁹⁶

Tableau A3. 22: Principale source d'énergie utilisée pour la cuisson par les ménages par quintile

	Plus pauvre	Deuxième	Troisième	Quatrième	Plus riche	Ensemble
2001						
Electricité/Gaz	0,2	0,4	0,4	1,0	3,4	1,4
Charbon	13,7	11,3	9,9	11,8	22,3	14,9
Bois	82,1	82,0	81,0	79,7	69,1	77,4
Autres	4,1	6,3	8,8	7,5	5,1	6,3
Ensemble	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0
2006						
Electricité/Gaz	0,2	0,1	0,1		1,7	0,5
Charbon	3,3	3,9	3,9	9,3	31,3	12,4
Bois	96,3	94,7	94,4	89,0	66,0	85,9
Autres	0,3	1,3	1,6	1,8	1,0	1,2
Ensemble	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0
2010						
Electricité/Gaz	0,3	0,4	0,6	1,1	3,6	1,6
Charbon	4,2	4,9	8,9	15,0	34,4	17,6
Bois	91,3	89,3	83,4	78,6	51,6	73,6
Autres	4,1	5,4	7,2	5,3	10,3	7,2
Ensemble	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0

⁹⁶ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 73-74

VI. 貧困に影響を与えている国内外の要因

1. 人口増加

人口増加等が資源不足や自然環境の悪化を助長している。また、生態系の破壊が進んだり、生物多様性が損なわれることにより、農村部の住民の収入が減じるという現象がみられる。貧困者層は、自然環境の悪化や洪水などの自然災害により、生活環境が悪化したり、食料安全が脅かされる危険性がある⁹⁷。

マリは農業を中心とする国であるが、このまま人口増加が続けば、農業を営む一人当たりの土地も減少していくとみられている。また、主な燃料源として使用されている樹木の伐採や土地の開墾により、年間 50 万ヘクタールが失われている⁹⁸。

人口増加は貧困率削減にも影響を与えている。貧困率は減少傾向にあり、2001-2006 年は貧困率が 8.2 ポイント減少している。しかし、2006-2010 年に限れば、貧困率の削減スピードはマイナス 3.8 ポイントと、改善の速度が落ちている。これは主に、この両期間の人口増加スピードの違いにあるとみられる。2006-2010 年は人口が年率 3.6% で増加しており、人口増加は貧困の悪化に大きく影響していると指摘されている⁹⁹。

2. 雇用問題

人口増加とも関連するが、マリにおいて雇用問題は貧困に影響を与える主要因の一つである。1960 年の独立以来、マリの人口は 4 倍に増加し、2009 年には 25 歳以下の人口が 940 万人に達した。年率 4.5% の経済成長にもかかわらず、失業率は 2001 年以来、悪化しており、8% 強となっている。とりわけ都市部では、人口増加に加えて農村部からの人口流入もあり、失業率が悪化しており、2010 年のバマコ(Bamako)の失業率は 25% に達している。また、毎年約 30 万人の若者が労働市場に流入してくるが、職業訓練を全く受けずに求職している状況で、若年層の求職者のうち、5 人中 4 人が未就業者で、10 人のうち 9 人が長期失業者であるとされている。このような状態が続けば、特に都市部においては貧困問題が悪化し、地域社会に緊張をもたらす恐れがあり、若年層に対する雇用創出は不可欠であると言われている¹⁰⁰。

なお、政府は雇用創出に向け、若年層を対象とした「若年者雇用プログラム(PEJ : Programme Emploi Jeunes)」等のプログラムを実施している。政府は、2002-2007 年の間に、大規模な公共事業を実施するなど、インフォーマルセクター・自営業を除き 11 万 742 件の新規雇用を創出している¹⁰¹。

⁹⁷ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.28

⁹⁸ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.29

⁹⁹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.22, 75

¹⁰⁰ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p. 30, 66-67

¹⁰¹ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.25

また、労働環境について、基本的人権の尊重など ILO が求める条件に適うような状況で雇用されている人はわずかに 5%であるという報告も見られる¹⁰²。

就業形態では、より不安定なインフォーマルセクターでの就労者が多く、国民の 80%にのぼるとされている。インフォーマルセクターは、一定の職業訓練経験やスキルが求められるフォーマルセクターとは異なり、収入は低く安定しない。また、女性の方が男性よりも学歴が低くインフォーマルセクターで働く傾向がみられる¹⁰³。

3. 男女格差

UNDP は、政府や NGO の取組により、初等教育就学者の男女比が 2001-2006 年で大きく改善されたとしている¹⁰⁴。しかし、全体として就学率は向上しているものの、性差による就学率格差は縮小していない¹⁰⁵。2010 年の初等教育における就学率を見ると、男子は 56.7%、女子は 51.8%、中等教育では、男子 25.4%、女子 20.4%となっている。識字率でも男性の 41.6%に対し、女性は 18.8%と格差が見られる¹⁰⁶。女子は母親の家事を手伝うために学業を犠牲にすることもあり、水汲みや炊事などの女性の家事労働の負担を軽減することも課題である¹⁰⁷。

マリではまだ女性の権利について一般に広く認知されていない。貧困や社会的・文化的背景、非識字等が女性の権利についての理解を阻んでいる。女性に対する差別は、貧困層において基礎教育や識字教育の普及を阻むことにつながる可能性も指摘されている¹⁰⁸。

なお、隣国とは異なり、マリでは女性器切除の禁止が法制化されておらず、2010 年でも 83%という高い実施率となっているほか、特に女性は、早婚などの被害を受けやすい傾向にある¹⁰⁹。

また、女性には伝統的に相続権や土地の所有権が認められておらず、これが男性よりも貧困に陥る可能性を高めている。しかし、経済的な理由で男性が農村部から都市へ転出するのに伴い、女性は農村部に残り、農業の重要な担い手になっている¹¹⁰。女性にも財産や土地の相続権を認め、マイクロクレジットへのアクセスができるように改善する必要がある

¹⁰² République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p. 67

¹⁰³ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.30, 67

¹⁰⁴ UNDP website, Situation du Mali par rapport à l'atteinte des OMD, http://www.undp.org/ml/index.php?option=com_content&view=article&id=232%3Asituation-du-mali-par-rapport-a-latteinte-des-omd&catid=48%3Aobjectif-du-millenaire&Itemid=59 (2012/FEB/15 アクセス)

¹⁰⁵ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.78

¹⁰⁶ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 38-39, 12, 44

¹⁰⁷ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.114-116

¹⁰⁸ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, pp. 106-107

¹⁰⁹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p. 24, 74

¹¹⁰ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.84

るという指摘もみられる¹¹¹。WFP(2009)の調査によると、銀行からの資金調達状況は性別によって差が見られ、男性世帯主は58%が融資を受けているが、女性世帯主では45%にとどまっている¹¹²。

図表 32 男女別識字率の推移 (2001-2010 年)¹¹³

Taux d'alphabétisation par milieu de résidence des individus âgés de 15 ans et plus

	Masculin	Féminin	Ensemble
2001			
Bamako	52,6	32,2	42,8
Autre urbain	36,1	18,7	27,3
Rural	17,6	5,2	11,2
Ensemble	24,5	10,1	17,1
2006			
Bamako	62,8	40,7	52,0
Autre urbain	58,6	39,8	48,8
Rural	24,9	10,2	17,2
Ensemble	34,9	18,2	26,2
2010			
Bamako	68,7	42,8	55,8
Autre urbain	61,2	38,4	49,5
Rural	33,0	12,1	21,6
Ensemble	41,6	18,8	29,4

¹¹¹ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, pp.114-116

¹¹² WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.42

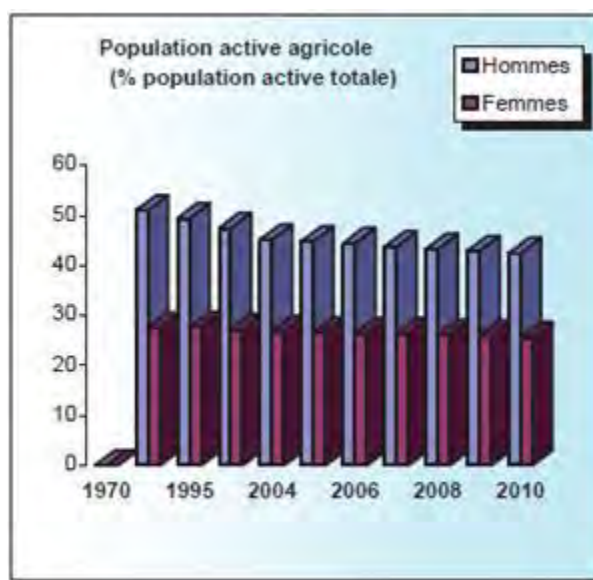
¹¹³ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 98

図表 33 男女別 7-12 歳の初等教育就学率の推移 (2001-2010 年) ¹¹⁴

Taux net de scolarisation au primaire I (7-12 ans) par milieu de résidence

	Masculin	Féminin	Ensemble
2001			
Bamako	58,8	56,6	57,6
Autre urbain	48,3	42,2	45,2
Rural	30,1	20,8	25,8
Ensemble	34,8	27,5	31,3
2006			
Bamako	88,7	80,6	84,7
Autre urbain	78,0	76,2	77,1
Rural	51,4	44,7	48,2
Ensemble	57,8	52,4	55,2
2010			
Bamako	78,3	72,1	75,0
Autre urbain	74,6	67,0	70,7
Rural	52,5	47,4	50,0
Ensemble	56,7	51,8	54,3

図表 34 男女別農業従事者の割合 (1970-2010 年) ¹¹⁵



¹¹⁴ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 75-76

¹¹⁵ African Development Bank(2011), Gender, Poverty and Environmental Indicators on African Countries, p.191
http://www.afdb.org/fileadmin/uploads/afdb/Documents/Publications/Gender_2011_r6.pdf (2012/MAR/13
 アクセス)

4. 社会保障制度

2004-2006年に病気や高齢による失業などのリスクに備えるために共済への加入が徐々に広まり、加入率は0.9%から2.2%へ増加した¹¹⁶。2008年時点では共済加入者は人口の2.6%、保健分野に限れば、1.9%となっている。物資や資金が不足する中で、政府は社会保障制度構築への取組を続けている¹¹⁷。

しかし、国民の約半分が貧困層である状況に加え、マリは気候変動や経済情勢といった外因性のリスクに対して脆弱であり、リスク内容は地域や貧富階層により異なっている。2007-2008年の調査では、都市部では食料の値上がりなど経済的要因が生活上のリスクとして指摘されており、26%と最も高くなっている。一方で、気候変動等による環境要因は2%と低い。農村部の世帯では、環境要因は25%で、経済的要因は5%となっている。各世帯のリスクに対する脆弱性の差は、貧困、教育、保健、性別、障害の有無に起因する。たとえば、女性や子どもは金融機関からの融資へのアクセスが限られているため、男性よりも脆弱性が高い。これらのリスク軽減のために、政府は様々なプログラムを実施してセーフティーネットを提供しているが、ほとんどが何らかの危機が起こった期間に一時的に実施されるものであり、慢性的な貧困を解消するには不十分である¹¹⁸。

図表 35 共済加入率の推移（2005-2008年）¹¹⁹

Tableau 4 : Evolution du taux de couverture des mutuelles

Année	Population du Mali	Nombre de bénéficiaires		Taux de couverture en %	
		Toutes prestations	Santé	Toutes prestations	Santé
2005	11.785.899	169.836	154.415	1,4	1,3
2006	12.051.021	253.583	166.021	2,1	1,4
2007	12.204.090	310.525	215.156	2,5	1,8
2008	12.712.655	333.079	244.028	2,6	1,9

Source : DNPSES

5. テロ活動等の治安問題

治安に関する問題は、都市部における強盗から北部地域における国境を越えた武装勢力の活動、共同体間の抗争など多様である。今日大きな問題となっているのは、麻薬、武器の密売、国際的なテロ活動などの組織犯罪である。マリはサハラ地帯に位置しているため、国境警備が手薄になるという地理的条件に加え、政情不安定、貧困問題などが背景となり、武装勢力が当該地域にて活動し、テロリストによる誘拐事件が起こっている。また、金融危機やコートジボワール、リビアなど近隣諸国の紛争といった国際的な危機要因も存在す

¹¹⁶ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.25

¹¹⁷ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, pp.26-27

¹¹⁸ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.75

¹¹⁹ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.27

る¹²⁰。

なお、2012年1月17日に勃発した北部地域における武装蜂起によって約13万人の人々が居住地を離れざるを得ない事態となっており、モーリタニア、アルジェリア、ニジェール、ブルキナファソなどの近隣諸国へ脱出する人々も出ているとUNHCRは報告している。2009年に締結された和平協定に反し、マリ国軍とツアレグ族のアザワド解放運動：Mouvement national de libération de l'Azawad (MNLA)との武力衝突が続いており、キダル(Kidal)のテッサリ(Tessalit)やアルジェリアとの国境付近のチネゼワダーン(Tinezewadern)での紛争が報告されている¹²¹。これを受けてフランス政府は2012年3月13日現在、ニジェール川流域南部を含むサヘローサハラ地域一帯、トンブクトゥ(Tombouctou)、ガオ(Gao)、ウアタグナ(Ouatagouna)を含むニオロ(Nioro)-ムルディア(Mourdiah)-ニオノ(Niono)-ドゥエンツァ(Douentza)-コロ(Koro)を結んだ線より北側を、移動を固く制限する危険地域に指定している¹²²。

¹²⁰ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.28, 31

¹²¹ UN website, <http://www.un.org/apps/newsFr/storyF.asp?NewsID=27666&Cr=Mali&Cr1=>, (2012/MAR/13 アクセス) .

¹²² フランス外務省サイト、<http://www.diplomatie.gouv.fr/fr/conseils-aux-voyageurs/conseils-par-pays/mali-12287/> (2012/MAR/13 アクセス)

地図 5 治安状況(2012年3月13日現在 フランス政府による)¹²³



6. 気候変動

2011年より西アフリカのサヘル地域一帯における早魃が報告されている。この地域は過去においても繰り返し早魃の被害を受けている。FAOによると2012年3月時点で、早魃に起因する穀物の大幅な収穫量減少とそれに伴う食料価格の高騰、家畜の飼料減少などにより、マリでも約300万人の食糧安全保障が危険にさらされている¹²⁴。また、マリでは1971-2000年の降雨量が20%減少しており、2025年までにはさらに11%減少すると予想されている。その結果、気温は4.0から4.5度上昇すると考えられており、それにより人口の68%が食料危機にさらされることになる懸念されている¹²⁵。既に劣化した土地を耕作

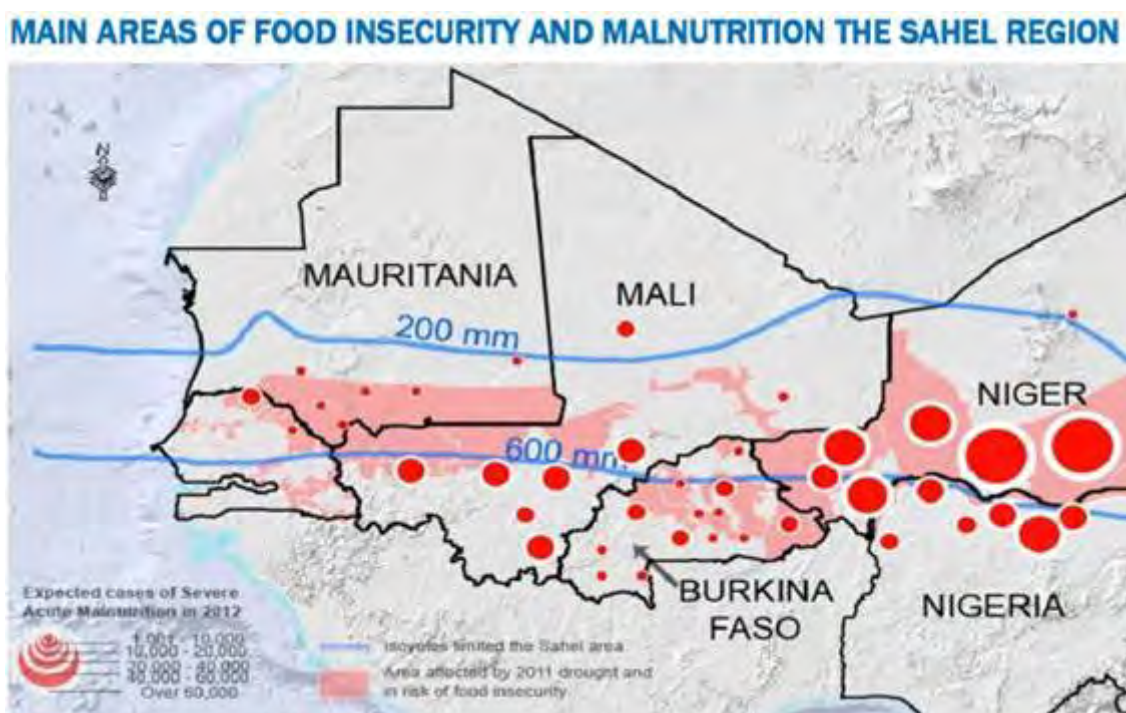
¹²³ フランス外務省サイト

¹²⁴ UN website, <http://www.un.org/apps/newsFr/storyF.asp?NewsID=27758&Cr=Sahel&Cr1=>, (2012/MAR/14 アクセス)。

¹²⁵ African Development Bank Group website,

する小規模農家や貧困層の人々は気象条件の影響を受けやすく、貧困状況がさらに悪化する恐れがある。政府は 2012-2016 年の 5 カ年計画で、500 か所の貯水池、250 か所の給水所の建設、5 万ヘクタールの沼地の整備、5 万ヘクタールの野菜栽培用地整備などを行い、貧困層が多い農業従事者が気候変動に対応できるように対策を取り始めている。この計画はカイ(Kayes)、クリコロ(Koulikoro)、シカソ(Sikasso)、セグー(Ségou)、モプチ(Mopti)、ガオ(Gao)の 6 地域で行われ、7.5 万世帯に恩恵をもたらすことになっている¹²⁶。

地図 6 食料安全保障が危険な地域 (2012 年)¹²⁷



<http://www.afdb.org/fr/news-and-events/article/mali-shows-way-in-fighting-hunger-caused-by-climate-change-8660/> (2012/MAR/14 アクセス)

¹²⁶ République du Mali(2011), Le Mali :programmes pour la mobilisation de« financements rapides » dans le cadre de la lutte contre les CHANGEMENTS CLIMATIQUES, p.16,30

http://www.undp.org/ml/index.php?option=com_docman&task=cat_view&Itemid=&gid=73&orderby=dmdate_published (2012/MAR/14 アクセス)

¹²⁷ UN website, <http://ochaonline.un.org/CoordinationIASC/Securitealimentairenutrition/tabid/5651/language/fr-FR/Default.aspx> (2012/MAR/14 アクセス)

VII. マリにおける JICA 事業の優先分野と貧困問題との関係

1. インフラ整備と地域間・貧富格差の是正

人間開発の指標が改善せず、MDGs の達成が難しくなっている。原因の一つに、インフラサービスへのアクセスに対して、居住地や貧富の違いにより、格差が存在することがあげられる¹²⁸。

全般にどのインフラサービスも農村部より都市部の方で整備が進んでいる。また、地域間でのアクセス率に差が見られる。2010 年の飲料水へのアクセス状況を見ると、都市部のもっとも裕福な 20% の階層では、96.9% が飲料水にアクセスできているのに対し、農村部の最貧の 20% の階層では、52.8% にとどまっている。同一地域内でも貧富格差によるアクセス率の違いがみられる¹²⁹。

電気エネルギーへのアクセス状況については、都市部・農村部ともに上昇している。しかし、都市部のもっとも裕福な 20% の階層では、電気へのアクセス率が 70% であるのに対し、農村部の最貧の 20% の階層においては 5% 以下であり、激しい貧富格差が存在する¹³⁰。

貧困層の 81% が主に農業で生計を立てているマリにおいて、道路整備は重要な課題である¹³¹。農作物を販売し、現金収入を得るためには市場へのアクセス環境が重要になるが、市場までの距離は全国平均で約 10km である。最も市場にアクセスしやすいのはセグー(Ségou) やシカソ(Sikasso)などの南部地域で、それぞれ平均 6km、7km となっており、市場まで遠いのはキダル(Kidal) の 23km である。シカソ(Sikasso)とセグー(Ségou)はそれぞれ 66%、54% の村が 15 分以内に舗装道路へアクセスすることができており、全国で最も道路インフラが整備されている地域である。政府は現在、バマコ(Bamako)-カイ(Kayes)、バマコ-ニオロ(Nioro)-ゴグイ(Gogui)、ニオノ(Niono)-ナラ(Nara)、ジェネ(Djenné)-サイ(Sayes)、バマコ-キタ(Kita)などを結ぶ道路整備を順次進めているが、アスファルト舗装された道路、もしくは車両が走行できる道路にアクセスできるのは未だに 42% の村にとどまっている。34% の村では最寄りの舗装道路までアクセスするのに 1 時間以上かかる¹³²。

また、気候や地理的条件あるいは季節により、一時的に周囲から孤立した状態になる地域が存在している。降雨による孤立が 79% の村、河川の増水で 19%、道路状態の悪さにより 2% の村が孤立状態に陥ることがある¹³³。WB によると、利用可能な道路に 2km 以内でアクセスできる農村部の住民はわずかに 17% である。また、国土の半分が乾燥地帯や砂漠地帯であるという地理的要因も陸路による交通を不便にしている¹³⁴。

¹²⁸ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.75

¹²⁹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 33

¹³⁰ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 37

¹³¹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 21

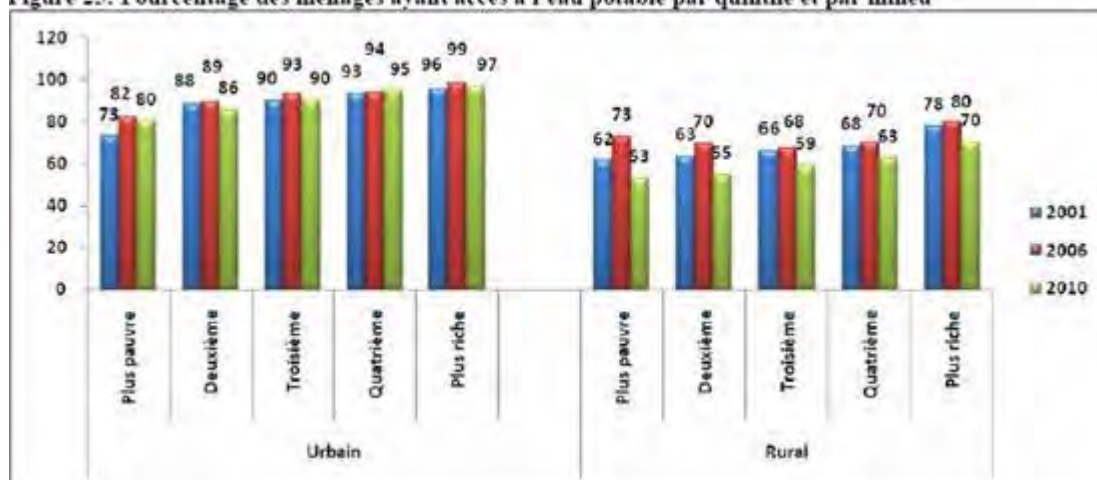
¹³² WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), pp.45-46

¹³³ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.34

¹³⁴ WB(2011), Mali's Infrastructure A Continental Perspective, p.10,15

図表 36 貧富階層別にみた水へのアクセス率(2001-2010年) (再掲) ¹³⁵

Figure 25: Pourcentage des ménages ayant accès à l'eau potable par quintile et par milieu



図表 37 貧富別 電気へのアクセス率 (2001-2010年) ¹³⁶

Tableau A3. 27: Pourcentage des ménages utilisant l'électricité par quintile selon le milieu

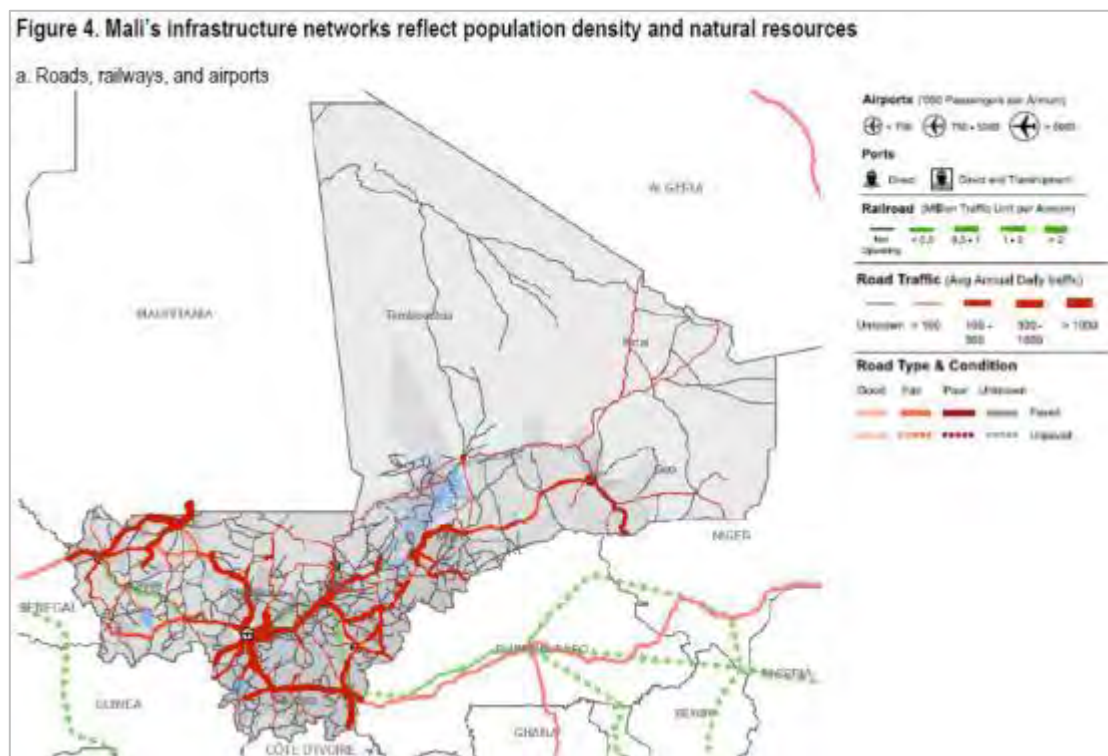
	Plus pauvre	Deuxième	Troisième	Quatrième	Plus riche	Ensemble
2001						
Urban	0,3	2,6	12,2	18,6	42,8	27,8
Rural	0,5	1,3	1,9	2,7	5,2	2,4
Ensemble	0,5	1,5	3,8	7,7	21,9	9,2
2006						
Urban	13,4	20,5	27,6	50	75	56,7
Rural	0,6	2,7	1,6	3,9	15,9	4,6
Ensemble	1,7	5,2	6,7	17,6	49,5	20,1
2010						
Urban	33,3	36,2	39,9	50,2	73,6	60,1
Rural	4,3	5,9	4,8	9,5	28,3	11
Ensemble	6,5	9,4	11	19,5	49,7	23,6

<http://go.worldbank.org/537W143HX0> (2012/MAR/13 アクセス)

¹³⁵ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 34

¹³⁶ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 75

図表 38 人口と交通インフラの密度¹³⁷



2. 農業従事者の貧困改善

2010年調査では、農業を主要な生業とする世帯の貧困率は57%となっており、貧困層の81%がここに属する¹³⁸。また、農村部における2010年の貧困率は51%となっており、大多数の貧困者が携わる農業関連の生産活動は、農村部の大部分の世帯が貧困から抜け出すのに十分な収入をもたらしていないのが現状である¹³⁹。マリでは、農作物を保存、販売するために不可欠なインフラ基盤がまだ弱く、全国平均で市場へのアクセス距離は10kmとなっており、最も遠いキダルでは市場まで(Kidal) 23kmも離れている。また、自動車が行ける道路にアクセスできるのは全国で約42%の市町村にとどまっており、農家が生産した作物を現金化するのは必ずしも容易でない¹⁴⁰。

農業従事者世帯の貧困率は他の職業よりも高く、2010年では57%となっている¹⁴¹。また、栽培作物により貧困度の違いが見られる。比較的貧困率が高い綿花栽培農家についてみると、当該農家が多いシカソ(Sikasso)では、生産量の低下や国際的な価格下落により栽培を

¹³⁷ http://www.infrastructureafrica.org/system/files/mli_new_ALL.pdf (2012/MAR/10 アクセス)

¹³⁸ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, pp. 21-22

¹³⁹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.48

¹⁴⁰ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.34

¹⁴¹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 21

やめる農家も出てきている。経済情勢のみが綿花栽培農家の貧困悪化の原因とは言えないが¹⁴²、シカソ(Sikasso)における貧困率は悪化していることが確認されている¹⁴³。

WFP は、栽培作物の違いによる貧困状況についての調査を 2007・2008 年に行っている。2007 年は農作物収穫の端境期に全国 208 村、3,120 世帯、2008 年は 210 村、3,150 世帯を対象に調査を行い¹⁴⁴、栽培作物・収入源ごとに 12 分類したうえで、鋤や鎌などの農具、自転車、バイク、テレビ、ラジオなど 16 品目の所有財産についても聞き取りを行い、トイレや電気の使用状況も加味して、貧困(Pauvre)、中間(Moyen)、富裕(Riche)の三階層に分類して貧困状況を分析している。この基準によると、全国レベルでは 43%の世帯が貧困層に分類され、中間層は 21%、富裕層は 36%となっている。栽培作物の分布状況は、農業・牧畜業グループがカイ(Kayes)、クリコロ(Koulikoro)、セゲー(Ségou)、トンブクトゥ(Tombouctou)、ガオ(Gao)に多い。灌漑稲作グループはニジェル川流域のマシナ(Macina)、ニオノ(Niono)が多い。また移動農民はイエリマネ(Yélimané)、ニオロ(Nioro)ーナラ(Nara)一帯に多く分布している。WFP が作成した指標を用いて栽培作物グループごとに見ると、農業・牧畜で生計を立てる世帯の 91%は貧困世帯になり、牧畜専門グループは 88%、貯水に頼る農法をする世帯は 86%が貧困と分類される。反対に最も貧困率が低くなるのは給与所得・商業で生計を立てる世帯で 15%、灌漑稲作農家が 24%となる。また、この分析手法により、年間支出額とその内容を比較すると、季節により出稼ぎなどをする移動農家と、灌漑稲作を行う世帯の支出額は同額であるが、食費の占める割合は前者が 64%であるのに対し、後者は 34%と違いが鮮明である。支出に占める食費の割合が大きいと、生活レベルを向上させるのに必要な生産活動や教育などに投資できる額が減り、貧困から脱するのが難しくなる¹⁴⁵。

資金面に関しては、農業従事者は農期前と農期中に資金が必要だとして 2 年単位での融資を希望している。しかし、銀行は既に融資した分の返済と担保を求めめるため、農民が融資を受けることはまれである。また、借金をするにしても、利子が 13%、保証金が 15-30%と高く利用することは非常に難しい¹⁴⁶。このような資金調達の難しさもあり、農民は、米を除くほとんどすべての栽培作物において自家栽培の種から播種を行っている。粟では 94%、モロコシ属では 96%、トウモロコシは 92%が自家製の種を使用している¹⁴⁷。

また、生産性の面では、1990-2007 年でほとんど変化が見られず、天候や害虫などの影響を強く受けている。この間の粟、モロコシ属、フォニオの生産高は年率平均にしてわずか 1.5%しか向上していない。これは、よりよい播種方法や肥料が十分に利用されていないことによる。トウモロコシの生産高については、1990-2006 年で年率平均 2.2%伸びている。

¹⁴² République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.37

¹⁴³ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 18

¹⁴⁴ 治安上の理由によりキダル(Kidal)、ガオ(Gao)の4村は調査していない。

¹⁴⁵ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), pp.9-10,22-23, 34-35,49

¹⁴⁶ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.92, 100

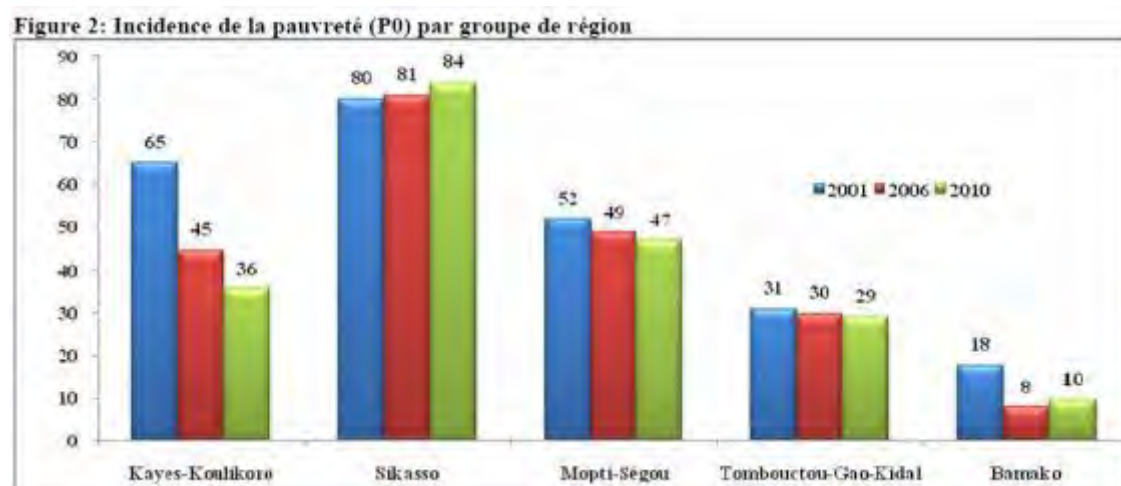
¹⁴⁷ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.39

これは、1990年から異なる2品種の栽培を導入したことや、より多くの肥料を用いたことが効果をあげたと見られる。また、耕作面積の大部分（72%）は牛馬による耕作で、人力は17%、耕運機の使用は1%となっている¹⁴⁸。

図表 39 職業別貧困率(2010年)¹⁴⁹



図表 40 地域別貧困率(2001-2010年)¹⁵⁰

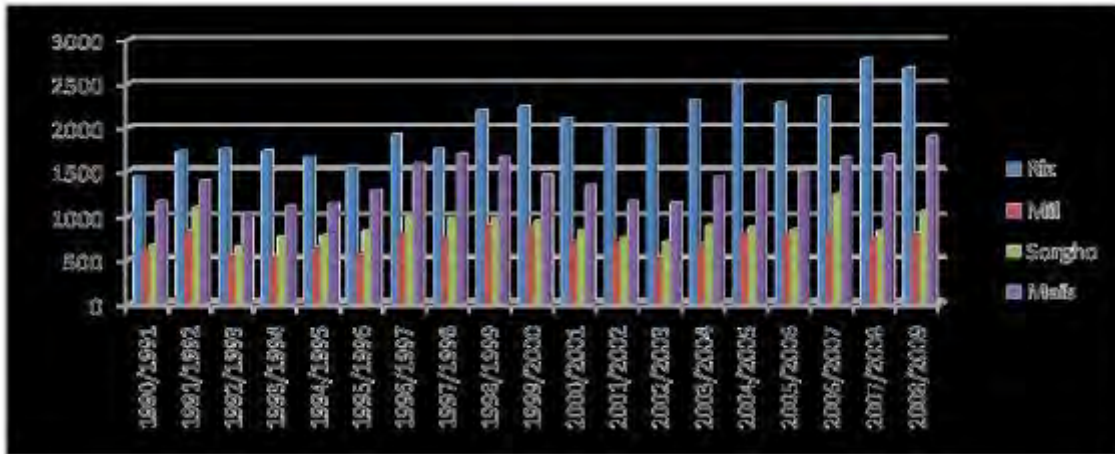


¹⁴⁸ République du Mali(2010), Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.48, 52

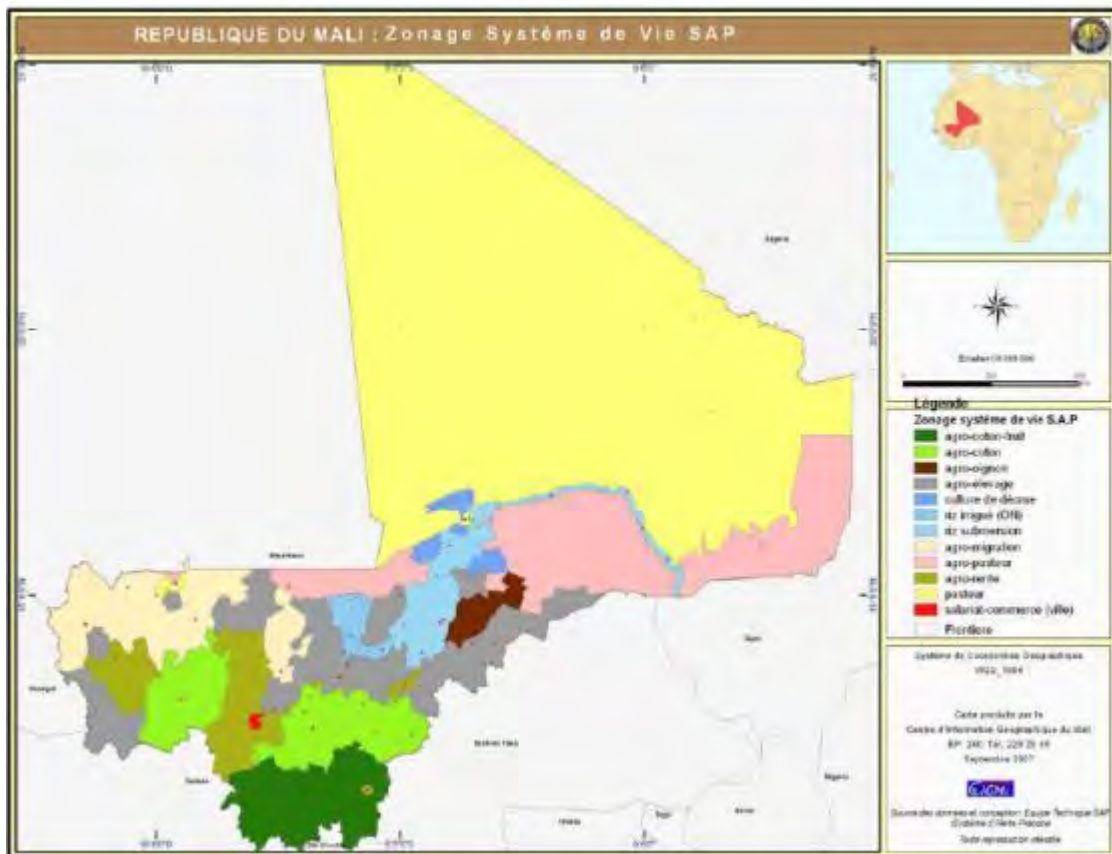
¹⁴⁹ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 22

¹⁵⁰ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 18

図表 41 主要栽培作物の生産高の推移 Kg/ha (1990-2009 年)¹⁵¹



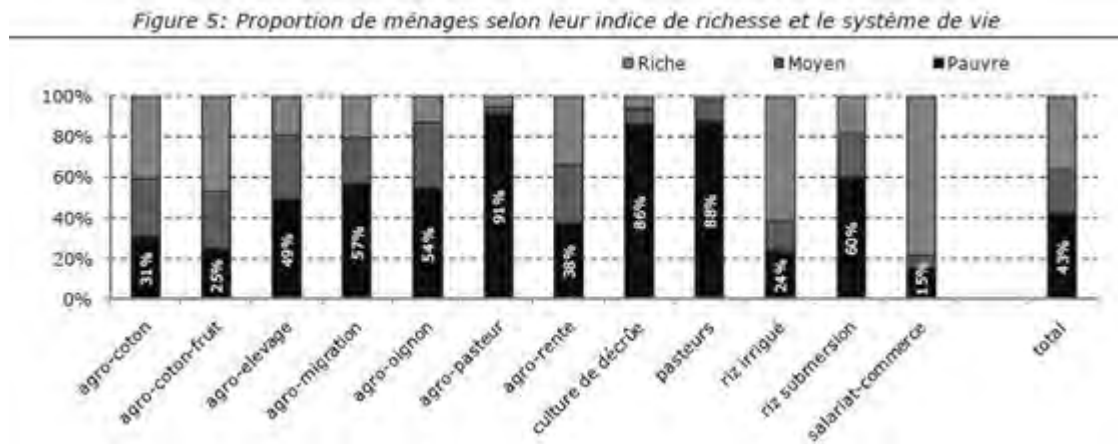
地図 7 栽培作物グループ分布図¹⁵²



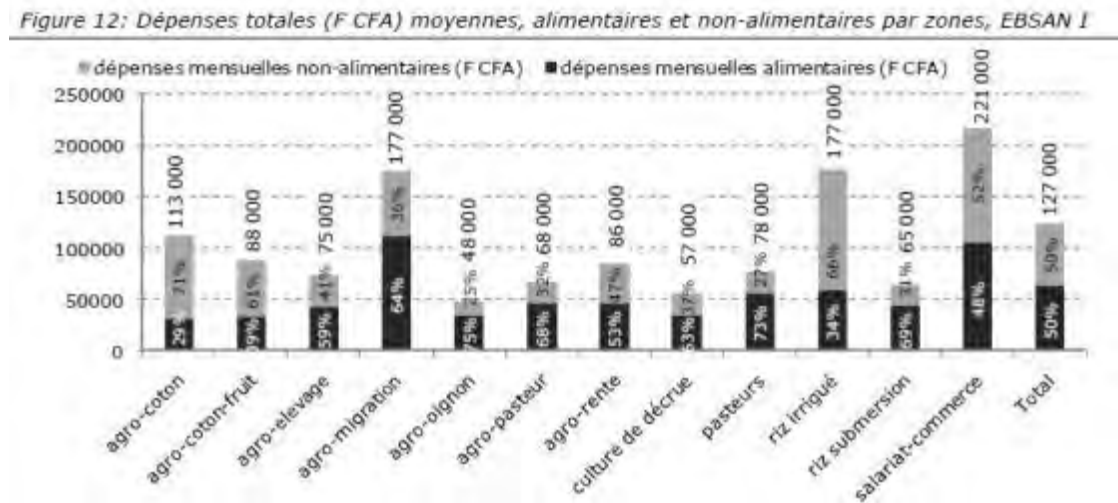
¹⁵¹ République du Mali(2010),Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole, p.53

¹⁵² WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.22

図表 42 WFP 指標による栽培作物・収入源別貧富状況¹⁵³



図表 43 WFP 指標による栽培作物・収入源別 年間支出額に食費が占める割合¹⁵⁴



3. 母子保健と医療・衛生状況の改善

UNICEF(2008)によると、5歳未満児の死亡率において大きな貧富格差が見られる。2006年の5歳未満児の死亡率は、最貧層では出生1,000人あたり233人であるが、最も裕福な層では124人である。また、2006年に6-59ヶ月の乳幼児を対象に行われた調査によると、マリでは約81%の乳幼児に貧血が認められ、そのうち10%は重度の貧血であるとされている。貧血を患う子どもの割合は2001年の81%から大きな変化は見られない。ただし、貧困層の子どもは2001年の86%から2006年には91%に悪化しているのに対し、富裕層では同期比で72%から64%へと減少している¹⁵⁵。子どもの死亡率が依然として高い原因とし

¹⁵³ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.35

¹⁵⁴ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.49

¹⁵⁵ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 84, 63-64

て、医薬品や医療従事者の不足、農村部に教育が行きわたらず、保健プログラム参加への理解が得られにくい、または参加率が低いことなどから死亡率削減を阻んでいると政府が UN と共同で 2009 年に発行した *Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali* で指摘している。

5 歳未満児の栄養状態に関しては、急性栄養失調や低体重児の割合が国際的に危険水準とされる 10% に対し、2006 年の 15.2% から 2010 年には 8.9% にまで改善された。しかし、2011 年時点でも約 3 万人の 5 歳未満児が急性栄養失調状態であると推計されている。慢性的な栄養失調または成長の遅れが見られる 5 歳未満児は、2006 年の 37.7% から 2010 年には 27.8% (約 9 万 5 千人) に減少していると報告された。しかし、子どもの栄養状態についても地域間格差が認められ、2010 年の調査によると農村部では約 30.8% の子どもに成長の遅れが見られるのに対し、都市部では 18.4% となっている。また、低体重児の割合は農村部では 20.4%、都市部では 14.3% となっている。栄養失調は 5 歳未満児の死亡率の悪化にもつながっており、毎年 35%、約 4 万 5 千人の子どもが栄養失調により死亡している¹⁵⁶。

妊産婦の保健に関しては、貧富格差による出産前検診の受診格差は縮小してきており¹⁵⁷、慢性的な治安問題が存在するキダル (Kidal) を除き、全国的に受診率は向上している。出産 10 万件あたりの妊産婦死亡率は 2001 年の 582 人から 2006 年に 464 人へと改善が見られる。これは、適切な知識・技術を持つ者の介助による出産率が 41% から 49% へと向上したためと説明されている¹⁵⁸。しかし、2006 年における適切な介助者の立ち会いによる出産率は、最貧層では 35.2%、富裕層では 86.3% と大きく差が開いており、課題が残されている¹⁵⁹。WB が 2006 年に行った調査によれば、医療施設での出産は 27% とまだ低い。産後ケアを受けているのは、主に医療施設で出産した人で、そうでない人の 72% は一度も産後に検診を受けておらず、産後 2 日以内に受診したのは 22% にとどまっている。医療施設で出産しない人は、受診にまつわる費用、保健センターまでの距離が遠いことなどをサービスにアクセスしにくい理由として挙げている¹⁶⁰。

また、教育を受けていない女性の 39.9% のみが適切な介助で出産しているのに対し、中等教育以上の教育を受けた女性ではその値は 88.4% と大きな差が生じている¹⁶¹。妊産婦死亡率改善のためには、地域保健センター (CSCOM) へのアクセスを向上させることや医療分野での人材育成などが必要であると認識されている¹⁶²。

¹⁵⁶ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.24, 86

¹⁵⁷ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. xxi

¹⁵⁸ République du Mali(2009), *Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali*, pp.62-63

¹⁵⁹ UNICEF(2008), *Pauvreté des enfants et inégalités au Mali*, p. 89

¹⁶⁰ WB(2011), *REPRODUCTIVE HEALTH at a GLANCE MALI*, p.2

<http://go.worldbank.org/SDZTNXQ1K0> (2012/MAR/13 アクセス)

¹⁶¹ République du Mali(2009), *Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali*, p.63

¹⁶² République du Mali(2009), *Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali*, p.70.

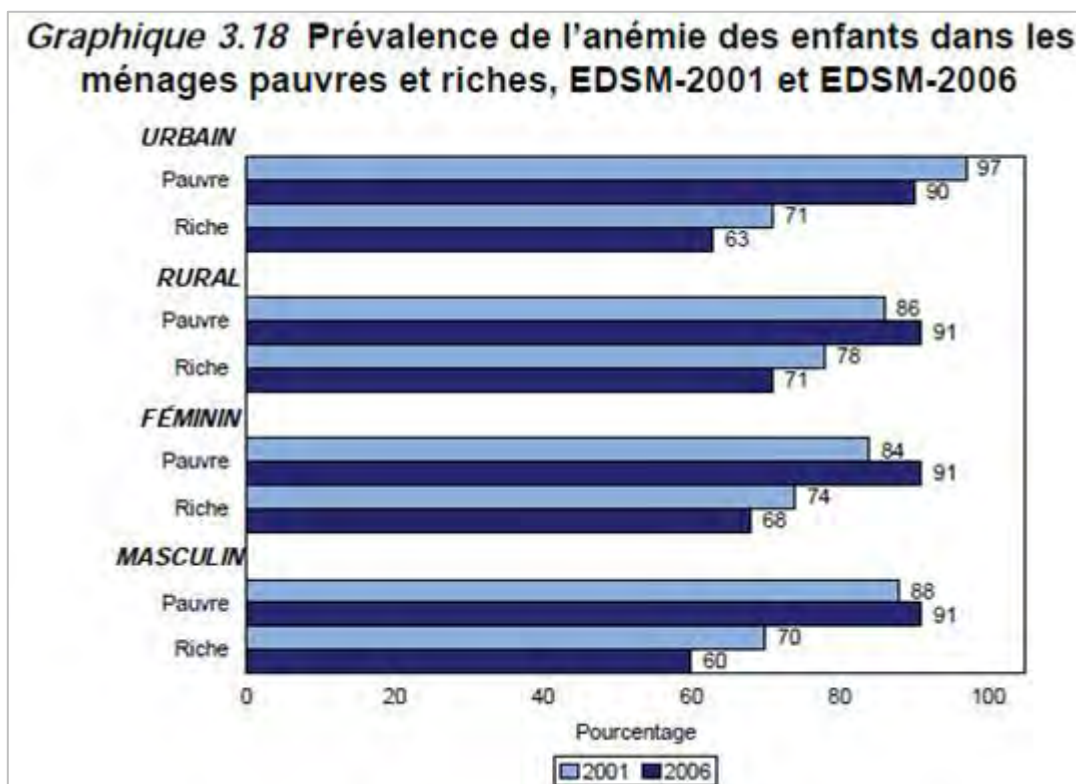
図表 44 貧富別 5歳未満児の死亡率(2001・2006年)¹⁶³

Tableau 3.23 Mortalité des enfants de moins de 5 ans selon certaines caractéristiques, entre 2001 et 2006 (en o/oo)		
Caractéristiques socio-démographiques	2001	2006
Milieu		
Urbain	185	158
Rural	253	234
Région		
Kayes	250	186
Koulikoro	219	222
Sikasso	235	237
Ségou	248	262
Mopti	291	227
Tombouctou ¹		229
Cao ¹	288	136
Kidal ¹		(83)
Bamako	134	108
Niveau d'instruction de la mère		
Aucun	147	223
Primaire	220	176
Secondaire ou plus	90	102
Quintile de bien-être économique		
Plus pauvre	248	233
Second	264	241
Moyen	262	226
Quatrième	244	227
Plus riche	148	124
Ensemble	229	191

Source: EDSM-III 2001 et EDSM-IV 2006
 () Basé sur un faible nombre de cas non pondérés (43 cas)
¹ Les indicateurs de 2001 sont calculés pour ces 3 régions prises ensemble. Le taux de mortalité infanto-juvenile en 2006 pour la région de Kidal (83) porte sur des effectifs assez faibles.

¹⁶³ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 84

図表 45 貧血がみとめられる 5 歳未満児の割合(2001・2006 年) ¹⁶⁴



図表 46 5 歳未満児の健康指標の推移 (1987-2006 年) ¹⁶⁵

Sources des données	Années de référence	Retard de croissance (taille pour âge en %)	de Emaciation (poids pour taille en %)	Insuffisance pondérale (poids pour âge en %)
EDSM-I	1987	24%	11%	31%
EBC	1989	27%	18%	43%
EDSM-II	1996	33%	25%	43%
EDSM-III	2001	38%	11%	33%
EDSM-IV	2006	38%	15%	27%

¹⁶⁴ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 64

¹⁶⁵ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.35

図表 47 適切な介助者の立ち会いによる出産率（2001-2006 年）¹⁶⁶

Tableau 3.30 Assistance lors de l'accouchement selon certaines caractéristiques, en 2001 et en 2006 (en%)		
Caractéristiques socio-démographiques	2001	2006
Milieu		
Urbain	83,7	80,0
Rural	27,8	37,6
Région		
Kayes	35,7	37,2
Koulikoro	48,5	55,5
Sikasso	43,3	50,6
Ségou	22,3	44,9
Mopti	20,0	37,7
Tombouctou ¹		25,9
Gao ¹	25,7	37,7
Kidal ¹		19,5
Bamako	93,7	92,6
Quintile de bien-être économique		
Plus pauvre	22,0	35,2
Second	27,0	36,6
Moyen	29,4	38,4
Quatrième	45,8	54,5
Plus riche	88,7	86,3
Ensemble	41,0	49,0
Source: EDSM-III 2001 et EDSM-IV 2006		
¹ Les indicateurs de 2001 sont calculés pour ces 3 régions prises ensemble		

¹⁶⁶ UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali, p. 89

図表 48 医療施設で出産しない理由 (2006 年) ¹⁶⁷

Reason	%
At least one problem accessing health care	65.2
Getting money for treatment	52.5
Distance to health facility	38.4
Having to take transport	36.2
Not wanting to go alone	23.9
Concerned no female provider available	19.9
Getting permission to go for treatment	18.2

Source: DHS Final Report, Mali 2006

4. 初等教育支援

2010 年の初等教育課程への実質就学率は、2006 年の 55.2% とほぼ変わらず 54.3% であった。初等教育の就学率は地域、性別、家庭の経済力により差が見られる。都市部では就学率は 72.9% であるのに対し、農村部では 50.0% となっている。就学率が高い地域は、バマコ (Bamako) の 75.0% に次いで、シカソ (Sikasso) が 59.1%、カイ - クリコロ (Kayes-Koulikoro) が 56.5% となっている。また、性別で比較すると、男子は 56.7% であるのに対し、女子は 51.8% となっている。特に差が目立つのは、世帯の貧富による比較で、最も裕福な上位 20% の世帯の子どもは 70.9% が就学しているが、最も貧しい下位 20% の層では 45.8% にとどまっており、この格差は 2001 年から変わらずに見られる現象である。中等課程における実質就学率は、2006 年の 16.5% からやや上昇し、2010 年には 22.8% となっている¹⁶⁸。WB によると 2006 年の 15-19 歳の女性 1,000 人につき 188 人が出産しており、同年の調査時で 20-24 歳の女性のうち、18 歳未満で出産をした女性は最貧層では 60% であるのに対し、最富裕層では 43% という結果が出ている。若年での妊娠、出産は母子の健康のみならず、女性の教育や生涯における職業にも影響を与えると指摘している¹⁶⁹。

初等教育における男児 100 人に対する女児の比率は、2003/2004 年学期の 76 人から 2007/2008 年学期では 81 人となり、やや向上している。ただし、中等教育以上になると、女子の就学率が低下する。女子の教育放棄の一員として、早婚、妊娠などが指摘されてお

¹⁶⁷ WB(2011), REPRODUCTIVE HEALTH at a GLANCE MALI, p.3

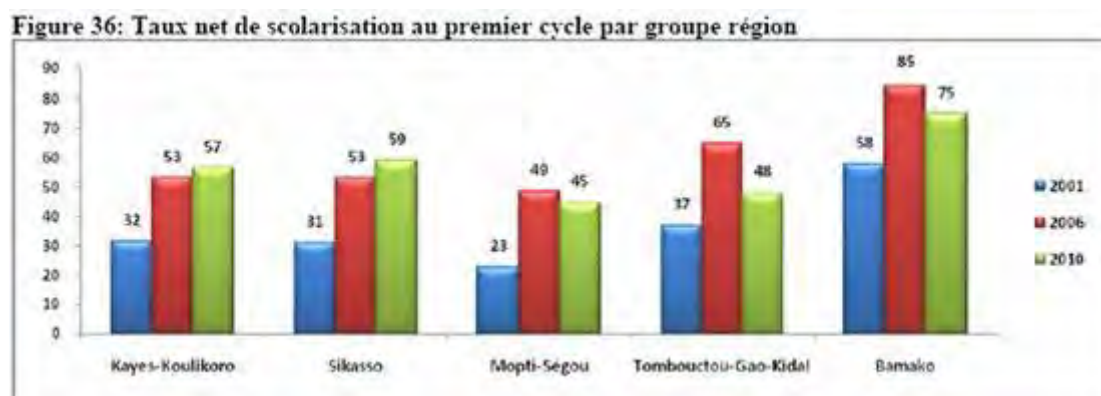
¹⁶⁸ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 12, 38-39

¹⁶⁹ WB(2011), REPRODUCTIVE HEALTH at a GLANCE MALI, p.2

り、両親に対して教育の重要性を説明することも必要である¹⁷⁰。マリにおける初産の平均年齢は 18.9 歳で、アフリカ諸国の中で最も早婚の国の一つとして数えられている。女性の出産人数は、学歴や貧富とも関わりが見られ、富裕層の女性一人当たり平均 4.9 人に対し、極貧困層では 7.6 人となっている。また、初等教育を受けていない女性は、一人当たり 7.0 人の子どもを出産するのに対し、初等教育修了者では 6.3 人、中等教育修了者は 3.8 人となっている¹⁷¹。

学校の設置状況に関しては、基礎教育課程の学校数は 2006-2007 年学期の 9,816 校から 2007-2008 年学期には 6.7%増加し、10,469 校となっている。初・中等両教育課程の生徒数は、同期間比較で、210 万 5,242 人から 224 万 5,162 人に増えている¹⁷²。治安上の理由により調査できなかったキダル(Kidal)とガオ(Gao)の 4 村以外で WFP (2009) が行った調査によると、平均 80%の村が小学校を備えている。普及率が最も高いのはシカソ(Sikasso)の 97%で、最も低いのは 57%のトンブクトゥ(Tombouctou)とキダル(Kidal)であった。また、居住する自治体に小学校がない場合は、通学に 30 分以上かかると報告されている。キダル(Kidal)では約 33%の児童が馬やラクダで通学しているが、それ以外の地域では 10 人中 9 人が徒歩で通学している。一クラスの平均児童数は 50 人で、教員 1 人当たりの平均児童数はキダル(Kidal)の 26 人からクリコロ(Koulikoro)の 60 人まで幅がある¹⁷³。

図表 49 地域別 初等教育課程の実質就学率(2001-2010 年)¹⁷⁴



¹⁷⁰ République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.48, 114

¹⁷¹ République du Mali(2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017, p.29

¹⁷² République du Mali(2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali, p.43

¹⁷³ WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN), p.30

¹⁷⁴ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 39

図表 50 基礎教育課程における男女比率(2001-2010年)¹⁷⁵

	2001	2006	2010
Education et Alphabétisation			
Taux brut de scolarisation au primaire (%)	45,1	74,5	75,4
Filles (%)	39,4	69,6	71,5
Garçons (%)	50,2	79,1	79,1
Taux net de scolarisation au primaire (%)	31,3	55,2	54,3
Filles (%)	27,5	52,4	51,8
Garçons (%)	34,8	57,8	56,7
Taux d'alphabétisation des adultes (%)	17,1	26,2	29,4
Femmes (%)	10,1	18,2	18,8
Hommes (%)	24,5	34,9	41,6

図表 51 貧富階層別及び男女別の初等教育実質就学率の推移(2001-2010年)¹⁷⁶

Tableau A4. 13: Taux net de scolarisation au primaire I (7-12 ans) par quintile

	Ensemble		
	Masculin	Féminin	Ensemble
2001			
Plus pauvre	28	16,4	22,6
Deuxième	28,7	20,6	24,9
Troisième	35,4	21,8	29,4
Quatrième	39,9	36,5	38,2
Plus riche	46,7	44,1	45,3
Ensemble	34,8	27,5	31,3
2006			
Plus pauvre	44,7	34,1	39,8
Deuxième	51,4	46,6	49,2
Troisième	56	49,7	52,9
Quatrième	63,7	57,3	60,5
Plus riche	80,5	79,7	80,1
Ensemble	57,8	52,4	55,2
2010			
Plus pauvre	49,4	41,8	45,8
Deuxième	53,1	48,5	50,8
Troisième	52,8	51,2	52,1
Quatrième	60,8	54,1	57,4
Plus riche	74,4	67,6	70,9
Ensemble	56,7	51,8	54,3

¹⁷⁵ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 2

¹⁷⁶ INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010, p. 88

図表 52 年齢及び貧富階層別の 18 歳未満で出産した女性の割合 (2006 年) ¹⁷⁷



¹⁷⁷ WB(2011), REPRODUCTIVE HEALTH at a GLANCE MALI, p.2

添付 1 参考文献リスト

JICA 研究所 (2012)、国別主要指標 マリ

<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/Mali.pdf>

African Development Bank(2011), Gender, Poverty and Environmental Indicators on African Countries,

http://www.afdb.org/fileadmin/uploads/afdb/Documents/Publications/Gender_2011_r6.pdf、

INSTAT(2011), ENQUETE PAR GRAPPE A INDICATEURS MULTIPLES ET DE DEPENSES DES MENAGES (MICS/ELIM) 2010,

http://www.mali-apd.org/IMG/file/pdf/ACTUALITE/Rapport_ELIM_draft_06_06_11.pdf,

IOM(2009), Migration au Mali PROFIL NATIONAL 2009,

http://publications.iom.int/bookstore/free/Mali_Profile_2009.pdf

Républiaue du Mali (2011), CADRE STRATEGIQUE POUR LA CROISSANCE ET LA REDUCTION DE LA PAUVRETE CRCRP 2012-2017,

http://www.mali-apd.org/IMG/file/pdf/DOCUMENTS_CLES/1_CSCR/2012_MALI_CSCR_2012_2017_VF.pdf,

République du Mali(2011), Le Mali :programmes pour la mobilisation de« financements rapides » dans le cadre de la lutte contre les CHANGEMENTS CLIMATIQUES,

http://www.undp.org/ml/index.php?option=com_docman&task=cat_view&Itemid=&gid=73&orderby=dmdate_published

Républiaue du Mali (2010),Crise alimentaire : enjeux et opportunités pour le développement du secteur agricole,

http://hdr.undp.org/en/reports/national/africa/mali/Mali_RNDH_2010.pdf,

Républiaue du Mali (2009), Mise en oeuvre des Objectifs du Millénaire pour le Développement au Mali,

http://www.undp.org/ml/index.php?option=com_docman&task=doc_download&gid=10&Itemid=

UNICEF(2008), Pauvreté des enfants et inégalités au Mali,

http://www.unicef.org/wcaro/wcaro_mali_child_poverty.pdf;

UNDP website, Situation du Mali par rapport à l'atteinte des OMD.

http://www.undp.org/ml/index.php?option=com_content&view=article&id=232%3Asituation-du-mali-par-rapport-a-latteinte-des-omd&catid=48%3Aobjectif-du-millenaire&Itemid=59

WB(2011), Mali's Infrastructure A Continental Perspective.

<http://go.worldbank.org/537W143HX0>

WB(2011), REPRODUCTIVE HEALTH at a GLANCE MALI.

<http://go.worldbank.org/SDZTNXQ1K0>

WFP(2009), Étude de Base de la Sécurité Alimentaire et de la Nutrition (EBSAN).

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp202667.pdf>

添付 2 主要な情報源リスト

マリ共和国

大統領府 <http://www.koulouba.pr.ml/>

首相府 http://www.primature.gov.ml/index.php?option=com_content&view=frontpage&Itemid=100001

農水産省 <http://www.maliagriculture.org/LOA/index.html>

政府統計局 <http://instat.gov.ml/>

国際機関

国連開発グループ 国別チーム マリ <http://www.undp.org/ml/>

世界銀行 <http://go.worldbank.org/DCYLOLX7V0>

国連難民高等弁務官事務所 <http://www.unhcr.org/cgi-bin/texis/vtx/home>

アフリカ開発銀行 <http://www.afdb.org/en/>

国連食糧農業機関 <http://www.fao.org/>

貧困データ

世界銀行データ <http://data.worldbank.org/country/mali>

国連公式 MDG データ <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>